

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

第29号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392-8548 諏訪市清水1-10-1 編集：会報編集委員会 第70回生(昭和39年入学)

地方会 継承にこめられた心の行方

今年の同窓会当番幹事70回生が最上級生であった昭和41年、豊田・湖南・中洲を統合して諏訪西鳳会が発足した。その年以來、清陵祭のアーチの制作は鳳会が請け負うこととなり、毎年、真夏の炎天下、鳳会員が杉の葉を集めて来てはアーチを組み立てた。準備段階からコツを

代々引き継いだ上級生の指導のもと、会員全員でかの誇り高きアーチを連綿と作成しつづけてきた。

当時、地方会は清陵祭参加のほかに新入生歓迎会、試胆会や卒業生追出しコンパといった共通の活動と、そのほかに登山やキャンプなど、それぞれの地方会

ごとに個別の活動が引き継がれていた。

昨今、その地方会活動が風前の灯火であるという。我々は、地方会活動により何を引き継いだのか……。思うに儀式としての地方会でなく、理想の花を咲かせる高き志をもった諏中・清陵の心ではなかっただろうか。



平成15年度 定期総会案内

一、日時 平成15年6月28日(土)午後1時30分より

一、場所 諏訪市「ホテル紅や」

一、議事 ①平成14年度会務・会計報告

②平成15年度事業計画・予算案審議

③創立110周年記念事業に関して

一、記念講演 午後3時より

校歌誕生100周年記念講演

「伊藤長七先生と雖千萬人吾往矣」

講師 矢崎秀彦氏 (35回生)

(元高校教諭・『寒水伊藤長七伝』著者)

諏訪清陵高校同窓会会長 宮坂久臣 (当番幹事70回生、次年度当番幹事71回生、サブ幹事80回生・90回生)

一、懇親会 午後4時30分より

会場 ホテル紅や

会費 5,000円

前売りチケットは当番学年・同窓会事務局・各支部事務局・学年幹事にて取り扱い中。当日受付にても可。

当番学年／山田 厚 (☎0266-28-6689)

藤森由一 (☎0266-52-2264)

同窓会事務局 (☎0266-58-0356)

先輩・後輩関係の構築の場としての地方会

難関といわれる試験を突破し、梶の葉の校章が象られたボタンを母親から学生服につけてもらう。いよいよ晴れて清陵生となれる喜びを心身すべてに感じながら出かけた地方会の新入生歓迎会。少し前まで同じ中学に通っていた先輩たちが、随分大人びた雰囲気をもって迎えてくれた。目の前に置かれてあったのは、上級生手作りのテスト用紙。どこかの大学入



歓迎会の校歌指導：親友会

岡谷北部中学校庭へ1年生全員に招集がかり、2年生の指導によりあの長い校歌を練習させられる。(昭和39年3月)

試の問題集から抜粋してきたものらしい。まったく手がつけられなかった。そして始まる校歌指導。今となつては決して優美な旋律とはいえず歌詞も難解な日本一長い校歌。上

級生が訳のわからない講釈で解説してくれた。到底1時間や2時間では覚えきれなかった。入学後に行われるという試胆会までの宿題となった。

入学式を終えて約1ヵ月を経た頃に開かれる試胆会では、一晩中校歌を歌いながら、中学の学区にある山をさまよひ歩いた。定められた関門では上級生がさまざまな難問を用意して待っていた。さながら今でいうオリエンテーリング。機転の利いた上手い解答ができないでいると、眼前にゆらめく焚火の向こうから上級生の罵声が飛んできた。焚火の明るさに幻惑され、その奥には漆黒の闇しか見えなかった。暗闇と、今までに経験したことのない自分に浴びせられる罵声への恐

怖から逃れるため、全知全能を働かせバカになりきった。やがて木々の梢の間から白々と夜が明ける頃、あの難解な校歌の歌詞も記憶の片隅にどうにか引っかかっていた。

試胆会が終わって学校に通う道すがら、歓迎会で指導があったように、上級生に行き会えば「オッス」の挨拶。上級生からも「オッス」が返ってくる。けれども、その響きは昨日までのそれとは明らかに違う。年長者であることに威を借りた威圧感はいま一つない。一個の人間として、同じ清陵へ通う仲間として尊重されているという安心感を実感した。上・下級生の垣根は取り払われた。否、もともと上級生の視線にはそんなものは微塵もなかったのかもしれない。あの闇夜の罵声も人格を否定するような悪意から発せられた罵声ではなく、新しい仲間を歓迎する好意あふれる歓声がそう聞こえていたのかもしれない。とにかく試胆会を終えた頃、ようやく新入生も清陵に馴染むことができた。その後の活動は先輩も後輩もない。みな同じ仲間だった。そうした雰囲気の中上級生は、清陵生として、人間として生きていく方法を下級生にそれとなく伝えてくれた。追い出しコンパでは3年生をどう追い出せば喜ばれるのか、みんなで知恵を出し合った。



3年生追い出しコンパ...親友会
岡谷市西堀公民館に集まり、徹夜で語りあった。随分悪さを教わり、大人の気分も味わった。(昭和40年12月)

最近、このような歓迎会や試胆会を行う地方会の数が減っているようだ。一方で律儀に伝統を引き継いで歓迎会や試胆会を行っている地方会もあるにはあるようだが、精神的・知的文化の継承の場というよりは、単なる新入生へのいじめとしか映らない内容のところもあるという。昨年、本紙第28号に特集された現職教師と同窓生による座談会では、「かつて地方会の歓迎会でなされた校歌指導もなくなり、校歌を歌える生徒が少なくなっている」など、最近の地方会の形骸化や不活発さについての嘆息の声がもれたりもする。また、平成13年3月発行の『清陵新聞』第239号には「地方会100年の時を越えて」と題し、現役新聞部が現在の地方会にスポットをあて、今後の地方会のありかたに一石を投じている。その紙面からうかがえる地方会に対する今日の清陵生の意識は、我々の当時のそれとは大分違った趣を呈しており、さらに今回、本紙に地方会を特集するに際して知り得た戦前の地方会の精神とはあまりにも懸け離れた理念によって地方会が運営されているようである。

今となつては、あの良き先輩・後輩のありかたを具現化し、諏中・清陵の自治の精神構築の基盤をなした地方会の復活は絶望的な状況ともいえそうだ。そういったなか、戦時中に高島学生団に生徒として所属し、終戦後教師として、さらに昭和50年を前後する期間には校長として清陵に関わられてきた小菅重男(45回)先生、もうひと方に戦後、交和会に所属し、昭和53年から教師として、現在は同窓会事務局長として、今日まで清陵を凝視められてきた武居浩明(56回)先生に、地方会今昔についてお話をうかがった。

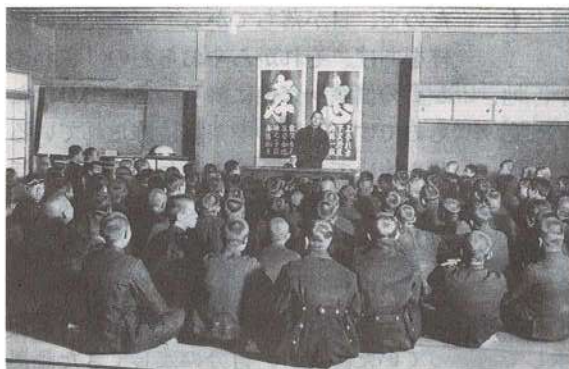
戦前戦後の地方会、そして過渡期を経て

—— 小菅先生が生徒としてこの清水ヶ丘に学ばれた頃は、まだ旧制の諏訪中。最上級生は5年生。先輩の雰囲気も今とは随分違っていたんでしょう。

小菅 そうだね。小学校を卒業したばかりの純真な少年期だったから、5歳、

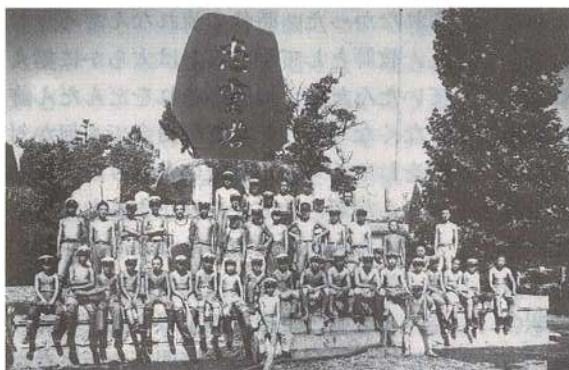
6歳からの年長者は随分大人の人に見えた。当時は戦後と違ってまだ矯風会もあった頃で、それぞれの立場についての先輩というのは怖かった。それが地方会という環境に組み込まれると、先輩も身近な存在となっていていろいろと教えてもら

った。地方会で先輩の姿を見ながら清水ヶ丘で志を立てることができたんだ。そのほかにもクラブとか、いろいろな場面で先輩と接することができたけれども、生徒があまねく先輩・後輩の心の交流をできたのは地方会だったということ



岳南会の集会

学友会にとって自治の砦であった記念館は地方会にも活用された。(昭和初期)



永明学友団による忠霊塔の清掃奉仕

巷に戦時色が強まるなかで、西南戦争以来の英霊が祀られた忠霊塔(茅野町役場庭)の清掃を行った。(昭和17年夏)

かな。

—— 当時の高島学生団の規模は？。

小菅 100人くらいはいたんだろうな。当然、高島小学校の卒業生が全員入っていた。地方会でバレーボールやスケート大会をやったり、夏沢峠を越えて八ヶ岳に登山したなんてこともあったようだ。当時は地方会の日が毎月1度の割合であり、最初に副団長が巻物になった高島学生団設立趣意書を読み上げて、つづいて団長が挨拶、それから5年生から1年生までが壇上へあがって何かをしゃべった。大社煎餅の饅頭が食べられるのが楽しみでね、「今後の日本に資するべき人

材となるには」なんていう話を上級生がして、誼中生の高き志を喚起するんだな。

—— 当時、永明学友団では役場に建てられた忠魂碑の清掃とかをやっていたようですが。

小菅 地方会の月例会は高島小学校へお昼を食べてから集まった。最初に体育館でバレーやバスケットをやって、それから談話会みたいなのが始まる。夕方、薄暗くなった頃に校歌や団歌をみんなで高吟するんだが、その夕闇の中で歌を歌うということことでみんなが随分興奮したもんだ。校歌や団歌には情緒があった時代だね。

—— そこで校歌指導が行われたのでしょうか。

小菅 いや、校歌は入学後に1年生全員を集めて学友会で指導した。高島学生団の試胆会は唐沢山でやった。これは下級生を楽しませる肝試しだから、最近のとはちょっとニュアンスが違うけど。

—— 上伊那や富士見など、遠くから通った人は、その道すがら随分と先輩の影響を受けたんでしょうね。

小菅 そうだよな。歩いて来るにしても、汽車にしても大概が地方会単位で通学していたからね。もともと地方会の発祥は、明治39年の伊那会の設立に端を発しているようだ。当時、諏訪中ばかりでなく松本や飯田、上伊那農学校へ通っていた伊那の生徒が集まって、「20世紀の世界を見据えて、郷土発展のために伊那の中学生は如何にあるべきか」なんていうところから創立されたんだな。これを契機に明治40年頃、高島学生団も含めて各地の地方会が結成された。それでもっ



小菅重男(45回)先生

て上伊那学生団の団結力は強い。今でも健在だよな。

—— 清陵の自慢すべき民主的な先輩・後輩関係はその当時から構築されていたんでしょうか。

小菅 明治の後半から昭和の初期までは、それぞれ学生団の設立趣意書などにある理念・理想に燃えて活動をしていた。そういった面では最も盛んな頃ともいえるだろうね。当時は、ナアナアの馴れ合い的な上下関係じゃなかった。自治を標榜するには、まず己から律しなければならぬわけで、そのために矯風会の果たした役割も大きかった。だから上級生は怖いという意識はあったよね。そのうちに社会的にも軍事色が強まり封建的な風潮が強まってくるなかで、諏訪中にあってもその色彩が濃くなっていく。上級生が下級生を引っ張り出して殴るなんていうこともあったらしいよ。

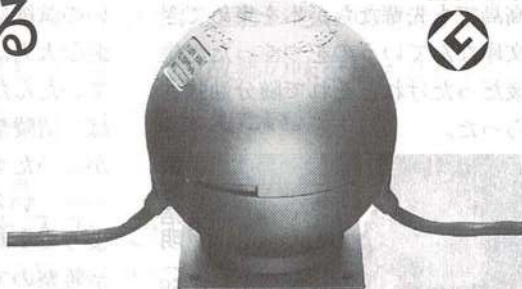
—— そういった軍隊的な社会価値観が全面的に否定され、戦後、民主日本建設のかけ声のなか、清陵高校が誕生する。その第1期生として武居先生の代、56回生が入学されたわけですが……。

武居 僕は岡谷の間下ですから、交和会へ所属しました。その時は旧制中学の時代の先輩から引き継いだわけですが、新制になって交和会がだめになったなんて言われました。ある言い方をすれば社会の風潮に倣って民主的な上下関係となった、裏返せば馴れ合い的な上下間系にな

最先端技術にはロマンがある

理想を追究したツイストノイズカットトランス
ノイズ障害防止の切札で、近未来に先駆けるトランスです

GOOD DESIGN



高度情報化社会のアキレス腱＝不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす

株式
会社

電研精機研究所

取締役会長(工博) 矢ヶ崎昭彦 (47回)

本社・工場／〒203-0042 東京都久留米市八幡町1-4-21
TEL: (0424) 73-3745 (代) FAX: (0424) 74-0613
大阪営業所／〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-7-5 マッセ四ツ橋ビル5号館
TEL: (06) 538-1118 FAX: (06) 538-2777
URL: <http://www.denkenseiki.co.jp>

ったということになるのでしょうか。

—— 年齢差も近くなり、最上級生を怖れることもなくなったのでは。

武居 我々の頃でも上級生に対しては畏敬の念をもっていた。また上級生たるもの、後輩から尊敬され、慕われる存在にならなければいけない、と潜在的に意識していましたよ。だから上級生は下級生の面倒を見ましたね。例えば当時、教科については1年時からほとんどが生徒の意志で選択できた。けれども新入生にとっては何を選択したらいいのかわからないから、勢い先輩に相談するしかないんです。僕らの頃には個々に先輩の家を訪ねて教えてもらったが、そのうちに新入生を一堂に集めてやったほうが合理的だともなって入学前の歓迎会なるものができていったのかもしれませんが。

—— 昔の地方会の記録が三沢勝衛先生記念文庫にあるそうですが。

武居 地方会ごとに、会員が思い思いに論説や随筆を書いたりしたものをもとめた『会誌』を発行していました。なかには皮のクロスで製本された立派なものもあり、宮川政学会など各地方会の会誌が貴重な資料として保存されています。

—— 活動内容はどのようだったのでしょうか。

武居 入学当初は、小菅先生の時代と大きな違いはないと思います。卒業した小学校へ行って体育館で運動をして、先輩の話を聞く。それから風樹文庫もそのうちのひとつなのかもしれませんが、地方会ごとに文庫をつくっていたんですね。風樹文庫の場合は、岩波茂雄というバックボーンになるべき人がいて、諏訪中の地方会にとどまらず、中洲村全体での取り組みになったんですが、小さいながらも交和会でも本を集めてきて文庫をつくっていた。そこにはとてつもなく難しいような本もあったりして、先輩から勧められてそれを読まされたりしました。

小菅 高島でも先輩たちが本を集めてきて諏訪文庫なんていうのをつくった。僕も卒業後だったけれどそれで随分勉強させてもらった。



武居浩明(56回)先生

—— 地方会活動が社会貢献の基盤ともなったわけですか。

小菅 昔はやはり郷土愛っていうか、地元を大切にしなければいけないという意識が諏中生だけでなく誰にもあった。僕の頃なんかは小学校にも地区ごとに少年団の組織があって天神様のお祭りなんかは子供たちだけで取り仕切った。小さい頃から上級生が下級生の面倒を見たりして、祭りの運営の仕方なんかを伝承していったもんだよね。

—— 私たち70回生の頃の地方会活動を振り返るに、既にそこには地域貢献とかいう意識はまったくなくなってしまっていたように思います。その象徴として、ご飯の上に蚕のさなぎを山盛りにしてカレーをかけて歓迎会で新入生にご馳走したり、試胆会が、ひと晩中、山中を駆け巡らす1年生いじめの会になっちゃった。ただ、後輩には清陵という文化に早く馴染んでほしいという気持ちはありましたよね。そういえば歓迎会の時に駅舎の清掃という社会貢献の真似をした地方会もありましたが…。小菅先生が校長として就任された頃、昭和50年ですか、地方会の活動について周囲から問題視されるようになったそうですが……。

小菅 そう、歓迎会や試胆会で変なものを食べさせられたり、顔に辛子なんかを塗られて外傷になったということで、親から学校へ苦情が入って、職員会でも議題にのぼったりした。あの時の僕の本音はね、歓迎会だか試胆会だか知らないが、ある種の成人式みたいな儀式で、生徒が自主的に運営しているものを大人がどうのこうのは言わないほうがいい、そのくらいに思っていた。むしろ、いつまでも上級生が下級生に対して威を張っていじめるよりも、ひとつこれを経過すれば清陵の場合、上級生も下級生もなくなってしまう、そういった雰囲気のほうが大事で、これを経過点として、そのくらいの試練に耐えられる根性もなければひ弱な大人になっちゃう、そう親にも話していたんだけどなあ。70回生の頃といえば、清陵祭のとき二葉へ行行って彫刻なんかにはいたずらしてきたんじゃない？

—— いろいろな集団で二葉へ行行ったようですが、私が所属していた地方会は清陵祭のアーチ作成に携わっていて、作成が終わった前夜祭の夜は警備と称してアーチに泊まり込んだんです。清陵祭と二葉祭が1日くらいずれて開催されていて、むこうの初日がこちらの前夜祭だっ

たので、日が落ちてからアーチ完成の祝杯をあげ、それからやおらあの「さわやか」のブロンズ像に飾りつけに出かけたものです。二葉の喫茶室に飾られている花を抜いてきて、その代わりに野草を枯れたり、黒板に書かれている字を適当に変えたりしましたね。当然、むこうも厳重な警戒体制にあるわけで、どの窓が開くなんてことも日々先輩から教わって知っていた。翌日、自分の残してきた証拠を確かめに二葉祭へ行きました。

小菅 二葉に忍び込んだり、地方会で酒を飲むなんてことは僕らの頃には考えられなかった。時代の流れなんだろうねえ。教師として僕なんかは大らかに構えていたんだが、周囲がそれをだんだん許さなくなった。それで職員会でも何か対応をしなくちゃいけないということになったんだが、地方会を廃止するなんてことは思わなかったね。それよりも生徒には、僕が生徒であった頃の地方会本来の姿、上級生・下級生の垣根を越えてお互いに切磋琢磨していく雰囲気を与えたかった。それで地方会対抗のサッカー大会の開催を提案したんだ。

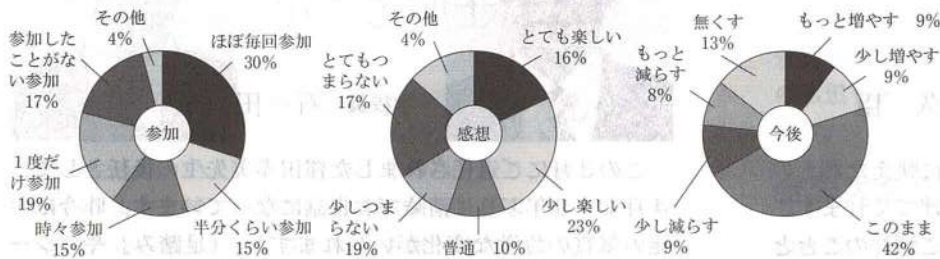
武居 それが、小菅杯として息づいた。小菅先生が転任後も続けられ、校舎改築でグラウンドが使えなくなった昭和60年頃まで行われていました。

小菅 我々の頃には地方会対抗のバスケットやバレー大会なんていうのもあった。地方会ごとに選手を決めて、上級生が上手く組織をリードしていたように思うよ。

—— 残念ながら、今はもうそれさえも開催されていない状況ですよ。確かに地方会だけが先輩・後輩の関係を構築する場ではないわけで、クラブも学友会も清陵祭もある。それぞれの場面ごとに清陵の文化が形成されつつ、それぞれに継承されていく。そこにお互いに尊敬し合える人間関係は現在でも築かれているのかもしれませんが、高い志みたいなものが表立ってこない。我々70回生の時代にそうであったかといえば、今日の小菅先生や武居先生のお話をうかがった上でははっきりした自信はないのですが、もう少し理想じみた夢をもっていたように思います。確かに世の中が世知辛くなってきて、大人社会も理想どころではなく、何を信じていいのかわからない状況ですが、せめてこれから社会を築いていく若者には、特に清陵生には崇高な夢をもって生きていってもらいたいと思います。

平成の地方会

——清陵新聞239号（平成13年3月8日発行「地方会100年の時を越えて」
からうかがえる地方会に対する現在の清陵生の意識——



【新聞部解説】

アンケートで地方会に対して思うことを聞いたところ、地方会劇について答えた人が大多数であった。地方会＝地方会劇というイメージを持つ人は多いようだ。さらにその内容を見ると、「わいせつ」「下品」といった意見がほとんどで、他の意見はあまりない。

そのためか、「地方会に参加しにくい」「あまり行きたくない」と思う人も多くいる。そういった地方会劇の内容を改善してほしい人もいる。

また、地方会を「中学校の時から友達と活動できて楽しい」「学年をこえて仲良くなれる」という肯定的な意見も多い。「新入生をいじめる」という意見も

あるのだが……。

地方会が現状のままいけば、積極的に参加する人と全く参加しない人の二極に分かれていくことが予想できる。

〔女生徒寄稿文〕——地方会の是非

私は地方会に関して特に賛成も反対もするつもりはありません。中立でもなく、早く言えば、今の私とは無縁なものです。授業のように義務ではありませんし、学友会のように無関心な人が取り立てて問題視されているわけでもありません。ともすれば滅亡するとも見えず、逆に無縁者が下手に首を突っこまない方が、地方会にしてみればお家安泰万々歳のように思えます。（清陵新聞第239号より抜粋）

現在、清陵には出身中学を単位として18の地方会がある。名前からしてずっと古くから伝統を引き継いできた地方会も、母体の中学がついこの間できたばかりの真新しい雰囲気のある地方会もある。当然にそれぞれ地方会ごとに活動内容は違うわけで、参加する生徒の意識に温度差が生じているのを押し並べて判断してはなるまい。上記抜粋も一部象徴的な文面だけをとりえたものであり、筆者の真意を語ったものでないかもしれない。筆者の2氏も同窓生となられている今となって、以下の感想にご批判があるとすれば甘受せざるを得ないが、およそ我々が清水ヶ丘に過ごした頃の地方会に対する意識とは隔世の感がある。このアンケートには単に地方会という形式だけを取り沙汰する今風の清陵生の本音が見え隠れする。

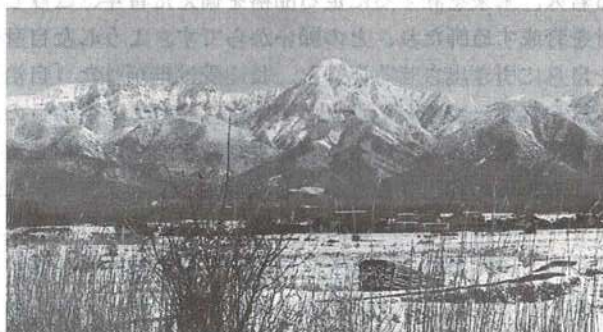
未来永劫にわたって継承されていくと信じていた伝統も、時代の変遷にともないその形態を変化させ、時には意味をもたなくなって消滅することもある。「あの時は良かった」という感傷を今に押しつける気はさらさらない。しかしながら例えば、地方会という絆に擁護され、深い懐をもった上級生が下級生に対し1人の人間としての尊厳を踏まえながらその面倒をみ、下級生はその姿を見ながら尊敬すべき上級生とは如何なるものかを見定め、なお自ら切磋琢磨していく方向を見いだしていった地方会活動の真髄は、今はどこか別な

ところに残されているのだろうか。地方会によって構築されてきた民主的な先輩・後輩関係は今でも健在か……。

今回、今は衰退期にあるという地方会活動の発祥から今日までの経緯を雑駁ながら振り返ってみるに、形式だけは代々引き継いできたものの、発祥時の崇高な理念がどこかに置き去られてしまったことにも気づかされた。我が時代を妄信していたがゆえに、浅はかにも先人の思いに心至らなかった現実を知った。心のこもらない形式はやがて廃れていくのも自明の理であり、ある時代における潮流の一端を担ってきた者として多少の責任を感じるものである。しかしながら今回は、我々の昭和40年頃の地方会の思い出と比較しながら、過去と現在の雰囲気記録することに留めるしかない。100年を超える歴史のなかで、同窓生の皆さんにはそれぞれに思い出があることと思う。そうしたなかで皆さんはどのように地方会を位置づけておられるのだろうか。



清陵祭へ地方会劇の仮装をして登校する（平成7年）



八ヶ岳（撮影 矢嶋壽雄 48回）

ひかり味噌株式会社

林 善八郎(58回) 小平 廉(58回) 林 博優(64回) 林 善博(81回)

少年の頃の質素な食事に、おいしい味噌汁があった。
お袋の温もりがあった。故郷の味を伝えたい。
贈る人の心の温もりを伝えたい。

信州の自然の恵み

大寒仕込み天然味噌「雅」

500gカップ詰×6ヶ●お届価格 ¥3,670

申し込み方法／林 善八郎（58回生）
発注単位／「500g×6ヶ」の1ケースから可
住所／〒393-0084 諏訪郡下諏訪町栄町 5238
Tel／0266-28-5188 Fax／0266-27-8224 mail address／zenhachi@po17.lcv.ne.jp
お支払い方法／商品同封の「振込取扱票」をご使用



清水ヶ丘に学んだ 誇りと喜び

同窓会長 宮坂久臣

見慣れた「いつもの景色」とはいえ、新緑に映えた郷土の山々、自然の美しさは私たちの気持ちを和らげてくれます。同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のことと拝察申しあげます。

今年も同窓会総会がやってまいりました。年1回の集まりではありますが、皆さまのお元気を姿を拝見しますと、母校の歴史の輝きとともに、清水ヶ丘に学んだ同窓の1人であることの誇りと喜びを強く感じます。

私は、去年の会報で「同窓生の“知の財産”を学校側が積極的に利用する」ことを呼びかけました。折しも窪田前校長のご努力で、文部科学省のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けたこともあって、同窓生による講演や在校生との意見交換などが多くもたれるようになりました。たいへん結構なことと思っております。

深い見識と豊富な経験の同窓生、未来への飛躍を秘めた在校生。年齢の差を越えた“ふれあいの場”は、歴史ある母校だからこそ可能なわけで、そうしたことがさらに新しい伝統を培っていくものと、私は確信しています。

伝統といえば、53年にわたって太陽黒点の観測を続けてきた母校の天文気象部が、今年3月に「SBC学校科学大賞」を受賞しました。この大賞はSBC信越放送の創立50周年記念として創設されたもので、天文気象部はその最初の荣誉に輝きました。先輩から後輩へと受け継がれた53年の観測活動とその記録は、まさしく“知の財産”であります。今回の受賞を契機に、さらなる“財産”が形成されることを期待する次第です。

さて、わが同窓生は、実に25,000人になんなんとしています。そして、先輩後輩を問わず、皆さんがさまざまな分野で活躍されていることは周知のとおりですが、このところ地元では、市町村長などの地方政治を担う同窓生が相次いで登場しています。これまではどちらかといいますと、政治の分野への同窓生の進出は少なく、私個人としては、少々さみしい感じをもっていました。それだけに果敢な挑戦によって、政治をつかさどる立場に立った同窓の皆さんに大いなる拍手をおくります。今後は自らの志を貫き、地域の人々の生活と文化の向上のために、一層のご奮闘をご祈念申しあげます。

来年は、御柱です。里曳き祭（上社5月2・3・4日／下社5月8・9・10日）には、同窓会の御宿（おやど）を設ける予定です。今から大勢の皆さまのご利用をお願いしておりますが、さしあたっては、今年の総会にお運びいただきまして、交流の輪に加わっていただきますよう、お待ちしております。

また、再来年は母校創立110周年の節目の年を迎えます。本同窓会では、過去10年ごとに同窓会名簿を発刊してきており、その節目の年に合わせて発刊すべく、今年からその調査を開始致します。いろいろとご面倒をおかけするわけですが、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願い申しあげます。



再びの僥倖を 新たな気持ちで

学校長 石田弘一

この3月にご退任されました窪田孝美先生の後任として、4月より9年ぶりに清陵でお世話になっています。昨今は生徒の気質の急激な変化がいわれませんが、「足踏み」や「シーコール」を久しぶりに耳にすると、清陵には変わらぬ精神が脈々と継承されていることが確信され、若き俊秀との再会が叶った嬉しさが懐かしさとともに心底から湧き出してきました。と申しますのも、教壇に立った前回の6年間は才能にあふれた個性豊かな生徒との邂逅を数多く経験し、教師としての心地よい緊張感とこのうえない喜びを実感できたからです。今回は100有余年の歴史をもつ輝かしい伝統校の校長という重い職責を与えられ、前回とはまた違った緊張感を覚えています。

今春の卒業生の入試結果は、同窓生の皆様や地域の期待に応え得る実績と清陵の存在感を示しています。こうした成果は窪田前校長が強力に指導力を発揮され、文科省の指定を受けたSSH（スーパーサイエンスハイスクール）諸事業による学校活性化がその一因と推察していますが、まずはこうした流れを一層着実にすることが、私の第一の責務と銘肝しております。教育を語る際、堅持すべき要諦と必要な改善・変革の代名詞として「不易」「流行」の2語がしばしば用いられますが、指定2年目を迎えた本校のSSHの取り組みは、その独自性から全国的にも注視される「流行」の先駆であり、今年度もさらに創意工夫を重ね、諸事業を力強く推進して参る所存です。

その一方で、教育は「不易」の重要性を見失ってはならない営みであることも言を俟ちません。私は着任直後、全教員に対し、評論家小林秀雄が大学時代の恩師辰野隆の定年退官にあたり、教え子代表として師への感謝の言葉を述べた際に「よき師とは学ぶ者をして自ら気づかしむるものである」とだけ言って絶句してしまったというエピソードを紹介して所信に代えました。苟しくも清陵の教師たる者は単に大学の合格実績といった眼前のことにのみ汲々せず、自ら進んで博く学び深く思索する向学の徒、誠実かつ謙虚に真理を希求する若人、未来を託するに足る品格を備えた青年、こうした人材を育成する師たれ、との願いからです。こうした自身の力を自らに引き出させる姿勢と、長く受け継がれた「自治」の伝統やスポーツを好む気風が相俟ってこそ、「不易」の、真に清陵に求められている教育を実践できるものと信じています。もちろん容易ならざることは承知していますが、私達が自身の理想を追求する姿を示すことが、生徒に理想を追求させることに繋がると信じて、与えられた任を務めて参りたいと思います。

青臭い書生論のようで汗顔の至りではありますが、素直にこうした思いを抱かせてくれるのが清陵の良さだと思っています。理想の花を咲かせるべく微力を尽くすことをお誓いし、皆様のご支援ご鞭撻を切にお願いして、ご挨拶いたします。



諏訪人らしい ゴタ小僧と 小さき紳士たち

前学校長 窪田孝美

教員生活も、いよいよ数日を残すのみとなり、感慨深いものがあります。特に清陵には前半8年間と後半5年間、合計13年間勤めさせていただき、特に感謝しております。

昭和52年4月に赴任し、すぐ1年生の担任となったわけですが、ホームルームのあるとき、生徒が『琵琶湖就航の歌』を合唱していたことがありました。私はこのとき、なぜこの歌を歌っているのか不思議に思ったのですが、後になって小口太郎先輩の作詞であることを知り、独り合点したものです。評論家佐高信が「この歌の好きな人には共通のタイプがある。底に人生の寂寥を秘め、決して他人を押しつけることなく、与えられた仕事にベストを尽くすという共通項である」と述べています。とすれば、清陵の「雖千萬人吾往矣」とは折り合わないような気もするのですが……。諏訪人らしい生徒が多く、お世辞にも墨痕鮮やかとはいえない「檄文。がよく壁に掲げられたり、校長室へ談じ込んできては、逆に校長から「おまえの母ちゃんを教えたことがある」と言われ、早々に退出するはめになった生徒など、自己主張ができるゴタ小僧がいて面白かったとの印象があります。

こう書いてくると、野放図な生徒ばかりに思えますが、その対照的な一面も彼らは持ち合わせていました。クラスマッチが1日で終了できず、後日放課後に試合を行うことがよくありました。このような場合、選手がそろわないクラスもあり、そうすると相手チームも相当すると思われる選手を引っ込めて、対等の人数で試合に臨んでいました。池田潔が『自由と規律』の中で「彼我の立場を比べて、何かの事情で得た不当に有利な立場を利用して勝負することを拒否する精神、すなわち対等の条件でのみ勝負に臨む心掛けをスポーツマンシップという」と述べていますが、生徒たちは無意識のうちにもフェアプレーの精神を理解していたのでした。

清陵祭のファイアーストームの顧問は2回やらせてもらいましたが、在任した前半と後半とでは様相が一変しており、びっくりしました。改策で伝統が繋がらなかったものと思われれます。その第1は大きさで、規模は変わってはいませんが、燃やす材料が貧弱になりました。昔は、家を壊した古材を3軒分運び込み、大きさに合わせての切り込みには、放課後2ヵ月を要し、鋸が何十丁壊れたことか。第2は内容で、校歌・ラン・民・談論が主体となり、フォークダンスは少なくなりました。職員も一緒に参加しましたが、洗っても洗っても頭髮から砂が出てきたこと、溶けたペンキでパンツが変色してどうにもならなかったことが思い出されます。後半の5年間は、生徒と接する機会が少なく、残念でしたが、酔って帰るとき生徒に富士山の駅で起こしてもらったことが何回もあり、感謝しております。

さて、最後の年に文部科学省からSSHに指定されましたが、これを機会にますますの清陵の発展を祈念申しあげ、退任の挨拶とします。ありがとうございました。

学 校 だ よ り

114名の女子を含む新入生246名を、4月3日に挙行された第108回入学式に迎えました。一昨年、校歌を歌う運動なるものが学友会により展開されましたが、来賓の方々からは「入学式の校歌を歌う声が小さかった」との感想もあり、今後も気長に努力を重ねてもらいたいところです。

全国大会出場の古典ギター部をはじめ文科系のクラブが大活躍をしました。一昨年の11月に行われた第31回県高校ギターマンドリンフェスティバルでの振興会賞受賞により14年度の大阪全国大会出場権を獲得した古典ギター部は、昨年7月に行われた同全国大会において優秀賞に輝きました。また昨年の11月、第32回県フェスティバルにおいても同様に入賞し、県下に誇れる新たな伝統を築きつつ活発に活動を続けています。吹奏楽部もこれに負けじと奮闘し、県のアンサンブルコンテストでは打楽器5重奏により銀賞を獲得しました。また、50年以上続く太陽黒点の観測が評価された天文気象部は、財団法人長野県科学教育振興基金

〔平成15年度入試結果〕

進学			就職	
希望者	進学者	%	希望者	就職者
279	184	65.9	0	0

国立大学			公立大学		
現役(女)	浪人(女)		現役(女)	浪人(女)	
帯広畜産大	1		茨城医療大	1 (1)	
札幌医科大学	1 (1)		高崎経済大	1	3
北海道大	4		東京都立大	1 (1)	1
弘前大	2 (2)		横浜国立大	1	
岩手大	1		都留文科大	1 (1)	
東北大	5 (2)		山梨看護大	1 (1)	
茨城大	2 (2)	3 (1)	長野看護大	3 (3)	
筑波大	5 (2)	1	静岡県立大	3 (2)	
宇都宮大	1 (1)		愛知県立大	2 (2)	
群馬大	2	3 (2)	大阪府立大		1
埼玉大	3 (2)	4 (1)	広島保健大	1	
千葉大	10 (5)	2 (2)	福岡県立大	1 (1)	
電気通信大	4		公立大合計	16 (12)	5
東京大	3 (2)				
東京外語大	1 (1)	1 (1)			
東京学芸大	3 (1)				
東京水産大	1 (1)				
東京工大		1 (1)			
東京農工大		2			
一橋大	1	3			
横浜国立大	2				
新潟大	4 (1)	1			
富山大	1				
金沢大		1 (1)			
山梨大	1 (1)	2 (2)			
信州大	21 (11)	11 (6)			
静岡大	2	1 (1)			
浜松医科大学	1 (1)				
名古屋大	1				
名古屋工大	1				
京都大		4 (1)			
滋賀大	1				
福井医科大学		1			
大阪外語大	1 (1)				
神戸大	1 (1)	1			
奈良教育大	1 (1)				
和歌山大	1 (1)				
岡山大	1 (1)	1			
広島大	1 (1)				
島根医科大学		1			
徳島大		1			
香川大	1				
愛媛大	1				
九州大		1			
鹿児島大		1			
国立大合計	88 (41)	54 (20)			

私立大学			その他		
現役(女)	浪人(女)		現役(女)	浪人(女)	
青山学院大	8 (5)	1	大 学 校		2 (2)
学習院大	2 (2)		海外の大学	3 (2)	
慶応義塾大	1	9 (2)	短大・専学	22 (17)	1 (1)
上智大	2	3	合 計	25 (19)	3 (3)
成蹊大	4				
中央大	7 (4)	4			
東京医科大学		1 (1)			
慈恵医科大学		1 (1)			
東京女子大	1 (1)				
東女医科大		2 (2)			
東京理科大	6	9 (3)			
日本大	5 (3)	3			
日本女子大	4 (4)				
法政大	8 (1)	3			
明治大	3 (1)	14 (1)			
明治学院大	4 (4)	2			
立教大	6 (3)	2			
早稲田大	9 (7)	8 (1)			
同志社大	1	7			
立命館大	5 (1)	7 (6)			
その他	89 (44)	71 (23)			
私立大合計	165 (80)	147 (40)			

の奨励金を受け、さらにSBC学校科学大賞をも受賞し、3月にSBCから特別番組として放送されました。昨年、諏訪地区高校演劇合同発表会で「大きな桜の木の下で」を上演した演劇部も念願叶って初の県大会出場を果たしました。今まで日の当たらなかったクラブが地道な努力の結果、こうしたまず第1歩の成果が残せたことを嬉しく思います。県英語ディベート大会常連の英語部は昨年もAチームが5位と健闘しました。

春の北信越準優勝

の快挙を成し遂げた野球部をはじめ各運動系クラブも健在です。例年ゴールデンウィークに始まる春の北信越高校野球では清陵野球部が並みいる強豪校を相手に県大会に優勝。6月、福井県で行われた本大会においても、金沢、富山商業といった甲子園常連組を撃破し、決勝に駒を進めました。地元足羽高校と覇権を懸けた決勝戦では連戦の疲れからか大敗を喫し、惜しくも優勝旗を持ち帰ることはできませんでした。

近年、女子により伝統が継承されているかの感がある端艇部では、やはり昨年も女子が大活躍でした。高校総体県大会において女子シングルスカルに関洋美が1位で、渡辺香織が2位で通過し、北信越へ出場。そこでも優勝した関はインターハイに出場し、準々決勝まで駒を進めました。そのほか陸上部の山田亮が県高校総体110mHに5位に、走り高跳びでは上島由理が3位に入賞し北信越大会出場を果たし、水泳部の伊沢裕が50m自由形で8位、酒井誠一郎が200m背泳ぎで6位、吉沢梓が100m・200m背泳ぎでともに9位、武居美緒が100m・200mバタフライとともに7位と健闘し、北信越大会へと駒を進めました。

春の北信越高校野球県大会で優勝を決めた諏訪湖スタジアムに金色の民が響く



近年、女子により伝統が継承されているかの感がある端艇部では、やはり昨年も女子が大活躍でした。高校総体県大会において女子シングルスカルに関洋美が1位で、渡辺香織が2位で通過し、北信越へ出場。そこでも優勝した関はインターハイに出場し、準々決勝まで駒を進めました。そのほか陸上部の山田亮が県高校総体110mHに5位に、走り高跳びでは上島由理が3位に入賞し北信越大会出場を果たし、水泳部の伊沢裕が50m自由形で8位、酒井誠一郎が200m背泳ぎで6位、吉沢梓が100m・200m背泳ぎでともに9位、武居美緒が100m・200mバタフライとともに7位と健闘し、北信越大会へと駒を進めました。

ファッションショーが1番 熱かったと学友会誌編集者が語る第52回清陵

平成14年度末教職員人事異動

転 出			転 入		
氏 名	転出先	教科	氏 名	前任校	
窪田 孝美	退職	校 長	石田 弘一	木曽高校	
五味 寛人	退職	国 語	伊藤 清文	富士見高校	
五味千万人	上田染谷ヶ丘高校	数 学	松崎 充博	松本深志	
大沢 東	長野市立皐月高校	"	久保田弥生	白馬高校	
赤羽 祐史	上田高校	英 語	大久保純男	木曽高校	
新井 正紀	高遠高校	"	松下美智子		
荻野 浩	退職	"			
下澤 秀夫	県教委教学指導課	理 科	岩波 文人	伊那北高校	
今井 保寿	退職				
牛山真理子	高遠高校	音 楽	藤森 秀則	高遠高校	
		保健体育	北澤 悠		
栗林 高弘	上小地方事務所	事務長補佐	長田 徳夫	茅野高校	
百瀬 千史	明科高校	養 護	土田 真美		
横山 昌由	南安曇農業高校	校用技師	津田孜々雄		

祭が、「清春」をテーマに7月6日から8日にわたって開催されました。今回は講演会の代わりとして、いくつかのテーマごとに分かれて、伝統や自治の精神についてOBの皆さんと現役生とが語らう場が設定されました。古き良き清陵を知るとともに、現在の自らの姿を照らし合わせ、今後のあるべき清陵の姿が模索されたものと思います。その一方でスタッフ、モデルを校内で調達したファッションショーの催しも盛り込まれるなど、女子生徒増加により質実剛健の校風も多少変わりつつあるのも現実として受け入れなければいけないことでしょうか。

伝統の端艇大会・湖周マラソンの2大行事も無事に開催されました

第104回端艇大会は9月9日に、第88回湖周マラソンは10月23日に、いずれも天候に恵まれた良い大会となり、大会主催者である学友会の担当者は陰の努力が報われたことに安堵の胸をなで下ろしていました。

日陰には雪が残る3月3日、第106回卒業式が行われ、279名が旅立ちました

が残り3月3日、第106回卒業式が行われ、279名が旅立ちました。主な進学先は前頁の表のとおりです。進学率については低調であった前年を上回ることができましたが、最近の景気が低迷する社会状況を踏まえてか、漠然と大学を目指す生徒ばかりでなく、将来を見据えたうえでの専修・専門学校へ進む者が増えてきていることもひとつの特徴としてあげられます。なお25日終業式後に窪田孝美第26代校長の退任式が行われました。

SSHの更なる発展を応援します！

小中高総合学習指導37年

チャレンジ学院

◆上諏訪教室(53-9635) ◆岡谷教室(23-8395)

◆下諏訪教室(28-7676) ◆茅野教室(72-9256)

夏期特訓受付中です。各教室へお問い合わせ下さい。

創造法認定 熱は人類永遠のテーマです

諏訪熱工業株式会社

- ・パルス通電ダイレクト面接合技術(極めて広い応用分野)
- ・真空熱処理・表面改質技術(イオン窒化&マルチナイト)

所在地: 諏訪市中洲 4750-11 Tel: 0266-53-9111

(70回生) 専務取締役 唐沢 均

(86回生) 宮坂賢治 (89回生) 井原武仁

SSH (スーパーサイエンスハイスクール) への取り組みが昨平成14年度より始まりました。文科省から「理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策についての研究を推進し、将来有為な科学技術系人材の育成に資する」ことを目的に、平成15年現在、本校を含め全国で52校が指定されております。本校では、生徒の知的好奇心・探究心を喚起するとともに、科学に対する理解を深め、将来の夢や未来への希望を育み、意欲的な学習への動機づけとなることを願い、第一線で活躍されている同窓生の皆さんや、地元の信州大学・諏訪東京理科大学およびセイコーエプソン株式会社などの協力を仰ぎながら、「清陵サイエンスフォーラム21」や、「講座」「サイエンスプログラム」などを計画しました。

まず新しい教育課程として、1年次後期から理系選択者全員にSSH1課程を適用し、「ときめきサイエンス」6時間を増設。数学・理科の4分野にわたる基礎をじっくり学ぶとともに、楽しい実験・実習により、数理の世界へ誘う授業を展開しました。さらに、2・3年次には少人数を対象に、外部機関と緊密に連携しながら実験・実習および課題研究を専門に行う「スーパーサイエンス」2時間を含む、特に重点的な理数教育を行うSSH2・SSH3課程を設定しました。

保護者・一般にまで門戸を開いた「清陵サイエンスフォーラム21」では、同窓生の皆さんを中心に、全国の研究者・技術者（文系

も含む）に講師をお願いし、講演会やシンポジウムを開催しました。なかでも第5回の「生命



第5回サイエンスフォーラム。顔写真は本校卒業生の今井啓雄講師



諏訪東理大での篠原菊紀講師によるサイエンスプログラム

提携三者との調印式（平成14年8月2日）左からセイコーエプソン安川英昭会長、諏訪東理大重倉祐光学長、信大森本尚武学長、本校窪田孝美学校長



サイエンスフォーラム

回	期日	テーマ／講師（所属／職位）	会場	対象
1	9/5	「科学と独創性」～21世紀のわたしたち～ 西澤潤一（岩手県立大学学長・元東北大学学長）	諏訪市文化センター	全校
2	9/30	「創造的人間になるためには」 藤原正彦（お茶の水女子大学理学部教授）	清陵小体育館	1年 2年
3	11/12	「研究開発に大切なもの」 花岡清二（69回生・セイコーエプソン㈱専務取締役）	清陵小体育館	1年 2年
4	12/19	「医科学研究生活を通して見た人の生き方」 大橋俊夫（信州大学医学部教授）	諏訪市文化センター	1年 2年
5	1/31	シンポジウム「生命科学の今」 加藤和人（京都大学人文科学研究所文化研究創生部門助教授）今井啓雄（89回生・京都大学大学院理学研究科助手）藤森俊彦（京都大学大学院医学研究科助手）中川真一（理化学研究所発生再生科学総合研究センター研究員）唐沢敏彦（89回生・農業技術研究機構北海道研究センター生産環境部研究員）山岸 敦（京都大学人文科学研究所文科研究創生部門研究員）	諏訪市市民会館	
6	3/10	「心の科学 Emotional Intelligence について」 興石美和子（セイコーエプソン㈱社員サービスセンターキャリア開発サポート部部长）	清陵小体育館	

セイコーエプソンによる連携講座・サイエンスプログラム

科目	実施日	講座名／内容等	講師	所属／職位	対象
数学	11/16	GPSのアルゴリズム	松本一実 北澤 豊	GPSビジネス推進部主事 GPSビジネス推進部課長	1年 2年
	1/17, 24, 2/7	シミュレーションと数学	今井 勉	商品化プロセス改革推進部グループリーダー	1年
物理	8/27, 29	プリンタのしくみ	碓井 稔	情報画像事業本部副事業本部長	2年
	11/28	時計のしくみ	青木 茂	W設計技術部長	2年
	11/15, 22	携帯電話のしくみ	富田 稔	情報処理技術開発室主任	1年
	12/6	マイクロロボット	宮澤 修	プロジェクト推進グループ主査	2年
	12/20, 1/10	半導体のしくみ	小口幸一 (70回生)	テクノロジープラットフォーム研究所副研究員	1年
	2/5, 12	コンピュータのしくみ	小松清治	エプソンダイレクト取締役	2年
	3/24	時計製造工場見学（サイエンスプログラムとして岡谷・塩尻事業所を訪問）	金井 隆	研究開発本部開発企画知財推進部主事	2年
化学	2/22	電子材料について	下田達也	テクノロジープラットフォーム研究所長	1年
	3/28	液晶パネル製作点灯実験（サイエンスプログラムとして富士見事業所を訪問）	永田光夫	映像技術開発室長	1年
	3/26	真空技術体験（サイエンスプログラムとして本社を訪問）	戸川栄司	研修センターグループリーダー	2年
	3/27	分析技術体験（サイエンスプログラムとして富士見事業所を訪問）	小松忠一	分析リサーチセンター課長	2年

科学の今」と題されて実施されたシンポジウムは、まさに最新の研究成果が、同窓生を含む比較的年齢の近い研究者により紹介され、理系・文系を問わず多くの生徒が感銘を受けたようです。また、第6回の「心の科学」については1年生のほう、第2回の「創造的人間になるためには」は2年生のほうで充実していたと感じていることがアンケート結果に現れました。藤原正彦氏（新田次郎次男）を講師に迎えた第2回「創造的……」は、氏の主張された「馬鹿になれ」との言葉

に、1年余分に清陵に暮らす2年生のほうに敏感に反応したことを物語るものといえそうです。

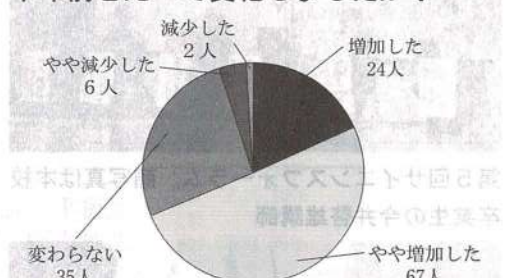
一方で主に理系選択者を対象とした1年次の「ときめきサイエンス」としては、物理・生物・地学・数学の4分野にわたり、研究者・技術者を学校にお招きして講義をしていただく「講座」を含めた学習をしました。この連携7講座が開講された物理では、セイコーエプソンの富田稔氏による「携帯電話のしくみ」といったような身近な器材や現象にとっても興味

がもたれたようで、同じく2講座開講の生物では、授業で生体のつくりを学ぶ一方で、連携講座の篠原菊紀（81回）助教授による「あなたの脳を体で知る」との講義を諏訪東京理科大を訪れて聴講しました。また地学の連携講座では、惑星の運動の分析からケプラーの法則を確認する実習をじっくり行いました。数学は、前半「黄金比と正五角形」をはじめ興味関心を引く内容を扱うなどして、生徒にはグループ研究が好評でした。後半は連携講座を5講座開講しました。

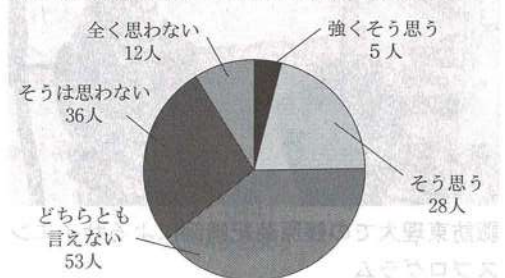
そのほか、クラブ活動として化学・生物および天文気象の各部が、信州大学自然誌科学館「自然のなぞ」に参加させていただきましたが、これらさまざまな取り組みに対する生徒の評価を下記アンケート結果に集約しました。そこからうかがえる現況は、「知的探究心の喚起」には成功している一方、生徒はそれがすぐに学力向上に役立つことにはならないと考えているようです。今後は興味や関心が向学心を高めて学力を向上させ、さらに創造性・独創性に富んだ人材を育てられるよう研究を続けたいと思います。

最後ではありますが、この研究授業に際し、同窓会の多くの皆様にご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

科学全般に対する興味・関心・意欲が、半年前と比べて変化しましたか？



SSHの取り組みは、大学受験の学力向上に良い影響を与えますか？



信州大による連携講座・サイエンスプログラム

科目	実施日	講座名・内容等	講師	所属	職位	対象
数学	8/22,23	微分積分学への招待	高木啓行	理学部数理自然情報科学科	助授	3年
	1/20,21,27,28	デタラメの世界	井上和行		教授	1年
	11/11,12,18,19	01ワールドの数の列	西田憲司		教授	1年
	2/3,4,24,25	多面体の話	阿部孝順		教授	1年
	10/28,29	複雑さをめぐって	乙部巖己		助手	1年
	2/13	微分積分学への招待	高木啓行		助授	2年
物理	11/1	物理とは一素粒子物理学ークォーク、レプトン、ニュートリノ	美谷島寛	理学部物理科学科	教授	1年
	11/21	宇宙の始まりと私たちを作るもの	竹下 徹		教授	1年
	11/20	宇宙（放射）線の話	宗像一起		教授	1年
	12/5	ニュートン力学の誕生ーコペルニクス、ケプラー、ガリレオ	山田鏐二		教授	1年
	12/16	磁石について	天児 寧		助授	2年
化学	8/24	ケミストリーはおもしろい！役にたつ！（サイエンスプログラムとして信大を訪問。各研究室に分かれて受講）	中村俊夫（66回生）他	理学部化学科	教授	1年
	10/10	身近な化学	上條正義	繊維学部感性工学科	助授	1年
	2/6	ケミストリーはおもしろい！役にたつ！パート2	中村俊夫		教授	1年
	2/20	無機材料物質としてのケイ素ーガラスとケイ素	樽田誠一	工学部物質工学科	助授	1年
生物	12/4,9,11,16	プランクトン生態学で知った研究のおもしろさ	花里孝幸	山地水環境教育研究センター	教授	1年
地学	12/3	大地震！その時君は大丈夫？	原山 智（74回生）	理学部地質科学科	教授	1年

諏訪東京理科大学

科目	実施日	講座名・内容等	講師	所属	職位	対象
数学	3/8	フラクタルへの招待	相原伸一	システム工学部	教授	2年
物理	1/23	人間社会と科学・技術・環境・エネルギー	谷 辰夫	システム工学部	教授	1年
	2/14,21		平田陽一		講師	
	1/17,20,24,27	エレクトロニクス入門講座	宮澤 悟	システム工学部	教授	2年
	2/7					
物理	1/29,31	振動とは何だろう	山田昭夫	共通教育センター	教授	2年
	2/6,17					
	12/5,9	デジタル信号処理の基礎	平田幸広	システム工学部	講師	2年
化学	3/8	カラー写真の原理	古館信生	経営情報学部	教授	1年
生物	1/21~30	あなたの脳をからだで知る（サイエンスプログラムとして東理大を訪問して受講）	篠原菊紀（81回生）	共通教育センター	助授	1年

平成14年度 定期総会の記

6月ともなれば諏訪でも暑い。太陽が頭上に輝く夏至をわずかに過ぎた6月29日(土)午後1時半より平成14年度諏訪清陵高校同窓会定期総会が開かれた。諏訪湖を渡る夏の風が心地よい湖畔の「ホテル紅や」を会場に、69回生が当番幹事を、70回生と79回生がサブ幹事を務めた。

同窓会の扉を開けた瞬間、目の前の顔や景色が、清水ヶ丘で夢を語ったあの頃に戻ってしまう。同窓会の魔力。今年度は、参加すればきっと楽しいことがある「ときめきと思い出・語り合いが出来る同窓会」を目指し、矢澤幹事長のもとで幹事学年、サブ幹事学年が一体となって企画と運営に当たった。約1年間の準備期間に何回も集まって議論し、飲んで歌った。「そうだ、俺たちにはまだまだ燃えるエネルギーが残っているんだ」。心が熱く燃え上がるのを感じた。その結果と言うべきか、総数330名を越える大勢の人たちが集まり、盛大で楽しい同窓会を開催することが出来た。支えて下さったすべての方々の努力の賜物と感謝感激。

総会では、初めに宮坂久臣(49回)同窓会会長より詳細な同窓会の現状および各支部の状況報告があり、続いて窪田孝美学校長よりスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けた経過と今後について、また、野球部の北信越大会での準優勝という輝かしい結果などのお話をうかがった。次いで武居浩明事務局長(56回)より①前年度会務・会計報告、②今年度事業計画・予算について説明の後、③松下勲(59回)編集委員長のもとになされる創立110周年記念事業としての名簿発刊事業等についての提案がなされ、審議、承認された。続いて同窓会役員改選について、選考委員会よりの提案を受け、再選の宮坂久臣会長以下、副会長に有賀裕(50回)、茅野實(52回)、林尚孝(52回)、洲上良子(56回)、監事には山岡正邦(48回)、竹村一司(50回)の各氏が選任された。

引き続き、「団塊の世代と日本」とのテーマで、大久保智弘君(作家)、八巻和彦君(哲学者)、花岡清二君(企業家)という全く違う分野で活躍している3人の69回生が、会場のまん中で語り合う新形式のトークショーが行われた。演者と聴衆が一体となって清陵卒業後の自分史を繙き、団塊の世代が果たした今日までの役割と、形作られてきた人間像を探っ

ていく。戦後日本の歴史は団塊の世代の生涯とピッタリとつながるのである。

私、小松が進行役を務めるなかで、団塊の世代が経てきた時代背景を解説し、それぞれの時代の節目で3者3様の生き方や考えてきたことを少しく引き出した。人生の原点を形成した高校時代のこと、闘争に翻弄された大学時代のこと、学生時代と高度成長時代の社会人としての隔たり、現在の若者たちとの違い、私たちが失ってしまったものは何か、ぶつ



自らの歴史と戦後を重ね盛り上がったトークショー

け本番の討論は熱く盛り上がった。マルクスでなくクザースの思想を研究した八巻君、教師をしながら作家になった大久保君、プリンターの開発に取り組んだ花岡君。それぞれ自分のスタンスを見失わずにこれまで歩んできた。その結果、時代の波が今、彼らを押し上げるに至ったことが判明した。前向きに挑みながら挫折を味わってきた世代だからこそ、未だ燃えるエネルギーを抱いており、最後に55歳からの挑戦を呼びかけた。

総会の最後を飾る懇親会には、総会に間に合わなかった会員も駆けつけ、広い会場もあふれんばかりにふくれ上がった。宮坂会長の挨拶の後、久々に参加され知事選に関する一言を添えられた茅野實(52回)副会長の音頭で乾杯した。どのテーマも旧知の間柄、盛り上がらないはずはない。やがて諏訪湖に夕日が輝く頃、サブ幹事学年の音頭により日本一長い校歌を大合唱し、小平祐(42回)大先輩の発声による万歳三唱をもって今年度定期総会のすべてが幕を下ろした。

本当に大勢の方々のご出席により盛大に、そして楽しく開催出来たことをご報告し、感謝の言葉に代えたいと思います。ありがとうございました。

小松郁俊(69回)記

医療法人 順 恵 会 伊藤外科医院

長野県医師会理事

院長 医学博士 伊藤隆一(第58回生)

長野県上伊那郡辰野町大字伊那富7483
TEL 0266-41-3388

諏訪名産
初霜

不二屋代表取締役 新村良雄(四九回)

新村隆(八五回)

下諏訪町四ツ角

TEL(〇二六六)二七一八五〇五

FAX(〇二六六)二八七〇九五

平成14年度 会務報告

■平成14年

- 4.3 諏訪清陵高校108回生入学式
10:00 (母校小体育館) 新入生
246名 (女子114名) 宮坂会長祝辞
- 4.8 会報編集委員会
14:00 (清陵会館) 69回生
- 4.18 物故会員ならびに道志社先輩慰霊
法要
11:00 (地藏寺) 宮坂会長ほか28名
- 4.27 上伊那支部総会
15:00 (たつのパークホテル) 有
賀副会長・窪田学校長出席
- 5.19 財諏訪清陵会・同窓会会計検査
(清陵会館) 井上彦次・小口成人両
監事、有賀副会長・事務局長出席
- 5.25 定期総会準備会
18:00 (鷺湖荘) 69回生・70回生、
有賀副会長・事務局長出席
- 6.1 財諏訪清陵会理事会
12:00 (母校応接室)
同窓会常任幹事会・幹事会
14:00 (清陵会館) 平成14年度定
期総会提出議案の審議 続けて懇
親会
- 6.7 『清陵同窓会報』28号発送 (16,200
部を母校1年生の協力により)
- 6.29 平成14年度諏訪清陵高校同窓会定
期総会
13:30 (ホテル紅や) 平成13年度
会務・会計 (一般・特別・クラブ
後援会) 報告、14年度事業計画・
予算などの承認、創立110周年記
念事業 (委員長松下勲氏による会
員名簿発刊事業) に関して承認、
役員改選 (寺島敏郎 (50回) 氏退
任により林直孝 (52回) 副会長、
井上彦次 (42回)・小口成人 (44回)

両氏退任により山岡正邦 (48回)・
竹村一司 (50回) 両監事、の承認、
その他の宮坂会長他三役再選)

記念講演:「団塊の世代と日本」
大久保智弘 (作家)・八巻和彦 (早
稲田大学商学部教授)・花岡清二
(セイコーエプソン(株)専務取締役)
の69回生3氏によるトークショー
懇親会:16:30 (ホテル紅や)

7.6 清陵祭における在校生とOBとの
交流会ならびに写真展

7.27 原支部総会
17:00 (原村中央公民館・レスト
ラン原宿) 松澤宏昭 (57回) 氏退
任により堀内元長 (62回) 支部長就
任 有賀副会長・窪田学校長出席

10.5 岡谷カノラータ・オーケストラ第
1回定期演奏会協賛

10.18 東京支部 (東京清陵会) 総会
18:00 (アルカディア市ヶ谷) 宮
坂会長・窪田学校長出席

10.23 母校諏訪湖1周マラソン
8:40 (石彫公園発着) OB・O
G17名参加

11.2 松本支部総会
16:00 (松本信州会館) 有賀副会
長・窪田学校長出席

11.13 諏訪支部総会
18:00 (諏訪シティホテル成田屋)
茅野嘉利 (57回) 氏退任により飯
田節夫 (58回) 支部長就任 宮坂会
長・有賀副会長・窪田学校長出席

■平成15年

1.25 関西支部総会
11:00 (阪神グリーンルーム) 宮
坂会長・窪田学校長出席

2.8 東海支部総会
16:00 (名古屋通信会館) 小山良
治 (42回) 氏逝去により岩田昌久
(50回) 支部長就任 有賀副会長・
窪田学校長出席

2.11 定期総会打合せ会
13:00 (清陵会館) 70回生・71回
生 事務局長出席

2.21 北信支部総会
18:00 (ホテル国際21) 有賀副会
長・窪田学校長出席

2.22 茅野支部総会
15:30 (マリオロイヤル会館) 矢
崎斉男 (51回) 氏退任により小川
明人 (56回) 支部長就任 宮坂会
長・窪田学校長出席

2.23 会報編集委員会
13:00 (清陵会館) 70回生 事務
局長出席

3.3 諏訪清陵高校第106回生卒業式
10:00 (母校小体育館) 卒業生
279名 (女子124名) 宮坂会長祝
辞 同窓会から卒業記念品として
印鑑セット贈呈

3.14 会報編集委員会
13:30 (清陵会館) 70回生会報編
集委員会

3.15 富士見支部総会
18:00 (油屋旅館) 五味昭二 (46
回) 氏退任により植松幹夫 (50回)
支部長就任 有賀副会長・窪田学
校長出席

3.21 下諏訪支部総会
18:00 (ぎん月) 宮坂会長・窪田
学校長出席

3.22 110周年記念『会員名簿』編集委
員会
15:00 (清陵会館) 宮坂会長・有賀
副会長・松下委員長ほか委員出席

3.25 母校転退職員送別会
17:00 (浜の湯) 同窓会より選別
(13名) 窪田孝美第26代学校長退
職 有賀副会長出席

3.28 岡谷支部総会
18:30 (ホテル岡谷) 宮坂会長・
窪田学校長出席

学年会報・名簿・自分史・歌集・詩集等
自費出版はすべておまかせ下さい

あなたの自費出版相談室



ユースビジコム出版

取締役社長 大森尚人 (68回)

月刊歌誌「ヒムロ」出版元 ユースビジコム出版有限会社

〒399-0425 長野県上伊那郡辰野町樋口2219

TEL 0266-44-3040(代) FAX 0266-44-3041

ホームページ <http://www.lcv.ne.jp/~omorinao/>

Eメール omorinao@po.lcv.ne.jp

SEALPAINT CO.

SDシールペイント株式会社

塗装・防水・リフォーム他一般建築施工

代表取締役 石田宗義 (70回生)

〒391-0213 本社 長野県茅野市豊平1676

Tel. 0266-73-5365(代) Fax 0266-73-5448

〒394-0001 岡谷営業所 長野県岡谷市今井1435-3

Tel. 0266-22-8225(代) Fax 0266-22-2225

<http://www.au.wakwak.com/~sealpaint>

平成14年度同窓会一般会計決算報告

収入総額 11,027,900円
支出総額 7,106,980円
差引残高 3,920,920円 (平成15年度へ繰越)

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増減(▼)額	備 考
前年度繰越金	4,706,627	4,706,627	0	
入 会 金	1,230,000	1,230,000	0	5,000円×246名
終 身 会 費	5,000,000	4,929,930	▼ 70,070	20,000円×246名、 未納会員1人分
基本財産収入	50,000	9,221	▼ 40,779	大口定期預金利息
繰 入 金	0	0	0	
雑 収 入	150,000	152,122	2,122	普通預金利息、名簿・ CD・100年史等売上金
合 計	11,136,627	11,027,900	▼ 108,727	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増(▲)減額	備 考
会 議 費	300,000	261,736	38,264	常任幹事会・幹事会 他
総 会 費	400,000	340,370	59,630	運営費・広告代・資料印刷代 他
旅 費	500,000	329,480	170,520	役員出張旅費・事務局長通勤費
人 件 費	480,000	480,000	0	事務局長給与
需 要 費	300,000	176,839	123,161	新聞代・リース代・消耗品代 他
役 務 費	400,000	131,635	268,365	電話料・ハガキ切手代
慶 弔 費	900,000	841,620	58,380	支部総会祝儀・教職員生徒個別・ 弔電 他
記 念 品 費	210,000	195,300	14,700	卒業記念品(印鑑) 代
繰 出 金	4,350,000	4,350,000	0	会報 (180万)、清陵会 (250万)、 会館維持 (5万)
基金繰出金	0	0	0	
備 品 費	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	3,296,627	0	3,296,627	
合 計	11,136,627	7,106,980	4,029,647	

諏訪清陵高校同窓会「基本財産」目録

基本財産 63,000,000円

(内訳) 大口定期預金 諏訪信用金庫 43,000,000円
八十二銀行 20,000,000円

平成14年度「清陵会館」維持会計決算報告

(平成14年 4 月 1 日から15年 3 月31日)

収 入 額 689,859円 (繰越金、繰入金、利息)
支 出 額 0円
差引残高 689,859円 (平成15年度へ繰越)

平成14年度 同窓会報特別会計決算報告

(平成14年 4 月 1 日から15年 3 月31日)

収 入 額 2,489,853円
(繰越金、一般会計よりの繰入金、広告収入等)
支 出 額 2,448,885円
(会報28号印刷編集費、郵送料等)
差引残高 40,968円 (平成15年度へ繰越)

平成15年度同窓会一般会計予算案

収入総額 10,240,920円
支出総額 10,240,920円
差引残高 0円

収入の部

科 目	予 算 額	前年度予算額	増減(▼)額	備 考
前年度繰越金	3,920,920	4,706,627	▼ 785,707	
入 会 金	1,230,000	1,230,000	0	5,000円×246名
終 身 会 費	4,920,000	5,000,000	▼ 80,000	20,000円×246名
基本財産収入	20,000	50,000	▼ 30,000	定期預金利息
繰 入 金	0	0	0	
雑 収 入	150,000	150,000	0	普通預金利息、名簿・ CD・100年史等売上金 他
合 計	10,240,920	11,136,627	▼ 895,707	

支出の部

科 目	予 算 額	前年度予算額	増(▲)減額	備 考
会 議 費	400,000	300,000	▲ 100,000	役員会・物故会員遺志社先葬法要他
総 会 費	400,000	400,000	0	運営費・広告代・資料印刷代 他
旅 費	500,000	500,000	0	役員出張旅費・事務局長通勤費
人 件 費	480,000	480,000	0	事務局長給与
需 要 費	250,000	300,000	50,000	新聞代・リース代・消耗品代 他
備 品 費	0	0	0	
役 務 費	250,000	400,000	150,000	電話料・ハガキ切手代
慶 弔 費	900,000	900,000	0	支部総会祝儀・教職員生徒個別・ 他
記 念 品 費	210,000	210,000	0	卒業記念品(印鑑) 代
繰 出 金	4,450,000	4,350,000	▲ 100,000	会報 (190万)、清陵会 (250万)、 会館維持 (5万)
基金繰出金	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	2,400,920	3,296,627	895,707	
合 計	10,240,920	11,136,627	895,707	

諏訪清陵高校OB・OG「諏訪湖一周マラソン」のご案内

本年も恒例の諏訪湖マラソンを下記により、母校の諸君に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの参加と応援を期待しご案内とします。

1. 日 時 10月22日 (水) 女子 8 時40分、男子 9 時スタート
2. コース (予定) スタート・ゴール 湖畔石彫公園 約18km
3. 受 付 湖畔石彫公園のスタート・ゴール地点 午前 7 時30分よりゼッケン受取り後スタート地点へ。終了後懇親会。
4. 参加費 3000円
5. その他 健康診断もお忘れなく。雨天の場合受付時に判断。

清陵湖周マラソンOB会

会 長 井上彦次 (42回) 事務局長 牛山 孝 (59回)
問合先 原 英充 (65回 Tel 0266-58-3547)
会 計 唐沢千明 (76回)

地域とともに

諏訪信用金庫

歩んでいきます

理事長 宮 坂 久 臣 (本店)〒394-8611 岡谷市郷田2-1-8
(49回・同窓会会長) 電話 (0266)23-4567

清陵高校クラブ後援会（3者*）会計報告（*PTA・同窓会・学友会）

平成9年度にPTA・同窓会・学友会の3者により結成された「清陵高校クラブ後援会」も発足以来6年を経過しました。同窓会においては会員各位のご理解を得るなか、この6年間に合計1468万円の援助を頂いてまいりました。

音楽4、百人一首・イングリッシュ・演劇がそれぞれ1回の合計122回でした。また、各種大会に参加するための生徒遠征費に対する補助回数は、諏訪郡内5、県内8、県外11回でした。

昨14年度からは第2次募金活動をお願いしているところではありますが、引き続き絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（平成14年度事務局：事務長 加藤博久）

平成14年度クラブ活動後援会（3者）会計決算

収入総額 9,375,414円
支出総額 8,669,259円
差引残高 706,155円

〔収入〕

科 目	予算額	収入済額	比較増減
繰入金	6,880,000	*6,800,000	0
県等補助金	1,000,000	378,500	△621,500
雑収入	3,124	38	△3,086
繰越金	2,116,876	2,116,876	0
合 計	10,000,000	9,375,414	△624,586

*PTA368万円 同窓会224万円 学友会 96万円

〔支出〕

科 目	予算額	支出済額	比較増減
生徒遠征費	7,000,000	6,372,626	627,374
大会参加費	1,200,000	1,208,923	1,077
登録料	800,000	632,540	167,460
施設使用料	600,000	455,170	144,830
事務費	20,000	0	20,000
予備費	380,000	0	370,000
合 計	10,000,000	8,669,259	1,330,741

平成14年度は、122の大会に延べ1600余名の生徒が「清陵」の名を背負って各種大会に参加し、頑張っていました。各クラブの出場した予選会・大会・発表会の回数は、陸上競技21、端艇11、野球7、箏球8、排球9、サッカー5、柔道5、剣道4、庭球12、軟式庭球7、卓球3、バドミントン8、水泳4、スケート2、古典ギター2、将棋3、吹奏楽4、

清陵高校クラブ活動同窓会後援会への入会のお願い

平成9年に発足いたしました「清陵高校クラブ後援会」も、当初の5年間（第1次・平成13年まで）で1704名のご協力（入会）を頂き、同窓会から学校へ1244万円の援助を行ってまいりました。そして13年度の定期総会において、14年度よりなおこのクラブ後援会を継続して（第2次・平成18年まで）、後輩を応援していくことが承認されました。

この内から14年度は、同窓会から学校へ224万円の援助をいたすことができました。ご協力ありがとうございました。

第2次2年目に当たります今年も会報発送時に、平成10年度に提出していた方々および平成9年の発足以来ご協力いただいていた方々に郵便振替用紙を同封いたします。何卒ご協力くださるようお願い申し上げます。なお平成11年度以降の入会（提出）の方々は、来年度以降の会報送付時に

順次振替用紙を同封いたします。後輩のためにどうか宜しくお願いいたします。（この「クラブ活動後援会」の趣旨などにつきましては平成9年5月発行の『会報』第23号をご覧ください）

ご送金方法

◇同封の郵便振替用紙でお願いします。（手数料無料）
◇ご都合で5年分一括でない場合は金額を訂正して捺印して下さい。（1年分以上何年分でも結構です）
◇銀行振込の場合は下記口座へお願いいたします。手数料はご負担いただければ幸いです。
（宛先）八十二銀行諏訪支店 普通 689-629
諏訪信用金庫上諏訪支店 普通 1049944
銀行振込の場合は差出人のフリガナ欄に必ず回を書いてからお名前をご記入下さい。（例「69 セイリョウ タロウ」）

諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会会計決算報告

（平成14年4月1日～平成15年3月31日）

収入総額 6,459,194円
支出総額 2,278,325円
差引残高 4,180,869円（平成15年度へ繰越）

収支の部（単位：円）

科 目	収入済額	備 考
繰越金	292,950	前年度より
会 費	6,164,820	627名分
雑収入	1,424	預金利息
合 計	6,459,194	

収支の部（単位：円）

科 目	支出済額	備 考
拠出金	2,240,000	学校後援会へ
需要費	38,325	振替用紙印刷代
合 計	2,278,325	

基金（定期預金）

種 類	預入先	金 額	利 率	期 間	満 期 日
普通指定期（単利）	諏訪信用金庫	3,000,000	0.040%	1 年	平成16.3.31
〃	〃	1,400,000	0.030%	〃	〃
	合 計	4,400,000			

クラブ後援会学年別会員数 H.14.4.1～15.3.31 会員数：627名

回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数	回生	人数
26	1	41	9	56	30	69	18	82	3	95	5
28	3	42	11	57	16	70	9	83	7	96	4
29	1	43	5	58	19	71	3	84	1	97	3
31	2	44	13	59	18	72	11	85	2	98	3
32	2	45	10	60	20	73	12	86	4	99	2
33	3	46	17	61	14	74	4	87	4	100	5
34	1	47	22	62	12	75	7	88	5	101	2
35	4	48	18	63	11	76	2	89	3	102	4
36	7	49	26	64	11	77	4	90	3	103	8
37	10	50	34	65	8	78	5	91	3	104	12
38	3	51	12	66	10	79	5	92	6	105	16
39	11	52	12	67	9	80	6	93	5		
40	6	55		68	4	81	3	94	3		

クラブ後援会平成14年度入会者ご芳名 (敬称略)

26回 中村 文武	44回 石井 幸一	48回 渡辺 誠	52回 茅野 實	59回 城取 俊昭	65回 岩木 弘	73回 長田 茂	92回 星野 淡紅
28回 小平 重紀	44回 今井 康夫	49回 会津 洋	52回 中島 邦男	59回 武石 務	65回 大井 隆	73回 平塚 唯史	92回 矢島 隆
28回 矢崎 猶重	44回 小口 正雄	49回 伊藤 清治	52回 野明 汎	59回 津金 勝巳	65回 小口 近宏	73回 ツツ木淳子	93回 小河原俊二
28回 山岡 利平	44回 小林 清秀	49回 今井 英夫	52回 林 高孝	59回 寺島 順仁	65回 木村 博	73回 山田 泰	93回 小口 貴義
29回 寺島伊清男	44回 関 一博	49回 牛山淳一郎	52回 堀田 満	59回 細野 祐	65回 黒河内聡夫	74回 金井 良一	93回 城関 英紀
31回 飯島喜太郎	44回 高木 章雄	49回 帯川 淳志	52回 米沢 時雄	59回 堀川日出生	65回 小林 三男	74回 浜 和夫	93回 関 剛士
31回 宮坂 水穂	44回 竹村 弘	49回 北沢 素幸	52回 青木 亨	59回 松下 勲	65回 五味 正明	74回 松縄 茂	93回 宮坂 大
32回 北原 登	44回 花岡秀一郎	49回 木見尻康彦	56回 青木 瑞枝	59回 山崎 雄二	66回 小口 俊吉	74回 柳沢 秀生	94回 佐藤真理子
32回 小林 又蔵	44回 原 幸宜	49回 久保田 貢	56回 市川 一雄	59回 山田 和彦	66回 奥村 和雄	75回 飯森裕見子	94回 森 智子
33回 五味 義治	44回 丸山 数馬	49回 小池 光磨	56回 伊藤 力司	59回 吉江 哲夫	66回 金丸 敏夫	75回 伊藤 弘志	94回 北條 浩之
33回 林 仙	44回 米澤美智雄	49回 小松 敏	56回 今井 常豪	60回 今井 将隆	66回 小平 正八	75回 岡野 幸子	95回 榎尾 和明
33回 宮下 正三	44回 宮坂 武夫	49回 鈴木 邦彦	56回 遠藤 福将	60回 植松 峯夫	66回 小松 弘	75回 金子 光	95回 小松 由貴
34回 渡江 利男	44回 山田 清	49回 土田 博文	56回 萩原 賢三	60回 奥村 正裕	66回 高山 俊裕	75回 徳嵩 昇一	95回 高山 俊裕
35回 伊藤 延男	45回 今井浩一郎	49回 永井 一輔	56回 小澤 邦重	60回 鎌合 剛一	66回 武内 広盛	75回 平出 俊二	95回 宮坂 清文
35回 藤森 邦俊	45回 小口 登	49回 新村 一幸	56回 河西 啓二	60回 小平 徳次	66回 樋口 宗司	75回 宮坂 道彦	95回 若松 礼子
35回 両角 克夫	45回 久保 光章	49回 林 厚彦	56回 河西 実	60回 小林 智昭	66回 藤森 英和	76回 坂本 茂樹	96回 五味 弘行
35回 山田 六一	45回 野口 金仁	49回 平出 隆男	56回 笠原 亮男	60回 小松 寛人	66回 藤森 元規	76回 田中 幸一	96回 酒井 東子
36回 石壁正一郎	45回 藤森喜久雄	49回 福島 脩一	56回 小泉 幸雄	60回 小松 寛之	67回 磯部 司郎	77回 小口 武男	96回 田中 雄一
36回 岩波 禎祥	45回 水野 正昭	49回 藤森 隆明	56回 小坂 弘	60回 近藤 信也	67回 磯部トモ子	77回 小林 祥一	96回 平林 一也
36回 北原 正義	45回 峯村 秀夫	49回 宮坂 久臣	56回 小宮山啓一朗	60回 篠原 健	67回 高木 智彦	77回 小林 初彦	97回 伊東巳代治
36回 熊谷 久志	45回 宮坂 文雄	49回 宮坂 敏彦	56回 酒井 敏夫	60回 田口 稔	67回 高木 蘭子	77回 小松 教幸	97回 小松 泰彦
36回 中村 清寿	45回 矢島 利一	49回 三輪 利典	56回 笹岡 修一	60回 長田 敦夫	67回 矢崎 太造	78回 金洞 修一	97回 深井 康志
36回 名川 方敏	45回 山田 通弘	49回 向山 幸男	56回 三溝 善一	60回 長田 通倫	67回 矢萩 哲也	78回 北沢 平吉	98回 郷 功記
36回 古原 良平	46回 今野 廣久	49回 山岡 利行	56回 武清 浩明	60回 野澤 勲	67回 山田 稔	78回 坂本 忠信	98回 紺野 悦大
37回 石井 睦蔵	46回 小口 久市	49回 山田 早苗	56回 仁科 和男	60回 林 貞良	67回 山本 巖	78回 坂本 勉	98回 中村 勇樹
37回 木川 達爾	46回 帯川 藤夫	49回 山田 佳也	56回 林 正高	60回 原田俊次郎	67回 吉江 幸次	78回 洞山 泰之	99回 紺野 真司
37回 後町 良定	46回 片桐 和見	49回 渡辺 次良	56回 藤森 惇一	60回 藤森 和弘	68回 黒河内 武	79回 市瀬 章	99回 宮澤 俊行
37回 清水 市之	46回 川上湧太郎	50回 伊藤 友彦	56回 堀 良子	60回 堀 浩	68回 藤森 照信	79回 小笠原喜久子	100回 澤 智美
37回 武井 清吉	46回 北澤 興司	50回 岩田 昌久	56回 保科 正明	60回 丸山 純夫	68回 水上登喜治	79回 五味 稔典	100回 田中 聡史
37回 土橋 道久	46回 小平 久平	50回 牛山 博美	56回 溝口 正	60回 柳澤 忠志	68回 矢崎 和広	79回 村上 芳秋	100回 谷内はる香
37回 林 次郎	46回 五味 昭二	50回 萩原 儀久	56回 望月 均	61回 小澤 興	69回 飯田 幹夫	79回 両角 昇吉	100回 平出 圭宏
37回 達三良	46回 斎藤 清一	50回 北澤 文博	56回 守矢 武久	61回 桑澤 鷹穂	69回 牛山 隆夫	80回 宇津木マリ	100回 宮崎 卓也
37回 宮沢 康夫	46回 高木 弘康	50回 小坂 幸三	56回 矢崎 和雄	61回 篠崎 知明	69回 小沢美枝子	80回 橋詰 剛	101回 郷 卓和
37回 両角 鐵象	46回 武井 厚隆	50回 後藤 英佑	56回 矢崎 源吉	61回 高見澤忠明	69回 小野 仁	80回 花岡 歳樹	101回 小松 信子
38回 金丸 寿男	46回 田中 博	50回 駒井 進	56回 柳平 明德	61回 土橋 勉	69回 小玉 静子	80回 藤森 民雄	102回 垣内理恵子
38回 茅野 魏	46回 花岡 健雄	50回 小松 横芳	56回 渡部 清	61回 土橋 敏安	69回 小林 二郎	80回 前島 健	102回 小林恵美香
38回 矢ヶ崎孝雄	46回 松沢 芳武	50回 五味 郁夫	57回 池田 賜恩	61回 中島 健	69回 五味 永吉	80回 山崎 正彦	102回 谷内 耕平
39回 井上 村吉	46回 宮坂 義三	50回 五味 隆俊	57回 上島 武	61回 野澤彰治郎	69回 高山 猛英	81回 田村まゆみ	102回 花岡 康平
39回 岩波 康幸	46回 百瀬 清人	50回 古室長太郎	57回 小河原章博	61回 平野 国政	69回 武村 光男	81回 中山 敏	103回 新井 英孝
39回 牛尾 松美	47回 矢島 昭	50回 小山 浩正	57回 荻野 浩	61回 堀川喜代太郎	69回 田中 道子	81回 原 隆一	103回 飯沢 未央
39回 栗林 松治	46回 有賀 公雄	50回 繁宮 治夫	57回 小林 宏	61回 三輪 昭裕	69回 津金 正典	82回 伊藤 隆	103回 紺野 恭平
39回 五味 達雄	47回 伊東敬一郎	50回 篠原 淳朗	57回 小林 浩	61回 柳平 啓明	69回 中野 寛	82回 藤森真佐子	103回 立石 一成
39回 清水 康弘	47回 今井 健彦	50回 白川 栄一	57回 小松 隆次	61回 山崎 善郎	69回 花岡 正	82回 古屋 了	103回 矢崎 もえ
39回 中村平之助	47回 上原 治郎	50回 竹村 一司	57回 篠原 康夫	61回 渡辺 博美	69回 比田井和子	83回 上原 稔	103回 山田美穂子
39回 橋詰 実	47回 小口 祐一	50回 田中喜代志	57回 茅野 嘉利	62回 秋田 英一	69回 比田井昌英	83回 岡本 徹	103回 山田 怜史
39回 平橋 治吉	47回 小澤昭一郎	50回 寺島 敏郎	57回 中澤 富夫	62回 小口 恭一	69回 藤岡 誠治	83回 小島 吉彦	103回 山井 淑子
39回 松田 惣作	47回 小澤 享	50回 永田 博敏	57回 浜 有	62回 小口 喜照	69回 増澤 敏行	83回 五味 弘昌	104回 有賀 大
39回 村上 利雄	47回 河西 君雄	50回 根橋 郁雄	57回 松澤 宏昭	62回 小松 敏雄	69回 矢島 正昭	83回 田中 妙	104回 小野陽士郎
40回 今井 實	47回 笠原 松吉	50回 羽田 忠彦	57回 溝口 藤雄	62回 田中 明雄	70回 伊東 正人	83回 橋本 実樹	104回 小河原皓也
40回 加々見一郎	47回 花岡 信一	50回 花岡 誠	57回 山崎 健彦	62回 田中 幹三	70回 唐沢 均	83回 矢崎 哲	104回 垣内寿美枝
40回 笠原 琢郎	47回 小林 正樹	50回 浜 邦夫	57回 依田 功	62回 長田 宏子	70回 小池 邦治	84回 宮下 浩和	104回 小林 紋子
40回 春日美佐夫	47回 五味 武司	50回 平澤 秀介	57回 和田 昭通	62回 中山 健	70回 斉藤 憲一	85回 武井 新彦	104回 清水 洋平
40回 吉田 久實	47回 竹村 健一	50回 平林 茂幸	58回 飯田 節夫	62回 濱 弘章	70回 進藤 政臣	85回 藤森 隆	104回 園田 裕美
40回 陸川 容亮	47回 遠山 健長	50回 藤森 睦美	58回 石坂 浩吉	62回 両角 晃一	70回 浜 輝泰	86回 伊藤 久人	104回 高山 昭一
41回 飯島 宗一	47回 新村 正全	50回 松崎 元博	58回 伊藤 隆一	62回 山口 鍊	70回 安木 良博	86回 小口 圭一	104回 新村 孝紀
41回 植野 忠道	47回 根橋 利夫	50回 松野 嵩	58回 今井 稔子	62回 吉田 貢	70回 柳沢 良一	86回 武田 正利	104回 野沢和貴子
41回 小口 俊弘	47回 濱 哲郎	50回 丸茂 恵司	58回 梅垣 弘	63回 荒木 信行	70回 米澤 英樹	86回 土屋 治彦	104回 古屋 文崇
41回 小池 正衛	47回 平出 康彦	50回 宮坂 哲夫	58回 笠原 忠夫	63回 伊藤 公博	71回 遠藤 憲一	87回 井出 健次	104回 堀内 治樹
41回 中村 守利	47回 松田 康夫	50回 宮坂 芳久	58回 平 伯満	63回 今井 洋一	71回 小松 公一	87回 栗林 秀治	105回 牛山 辰哉
41回 野口 甫	47回 翠川 昭久	50回 矢崎 欽司	58回 小林 是之	63回 海野 肇	71回 宮坂 茂雄	87回 黒沢 龍一	105回 北原あゆみ
41回 保坂 健	47回 宮坂 俊二	50回 吉田 守	58回 小林 秀文	63回 金井 英雄	72回 鮎沢 永	87回 五味 孝夫	105回 関 誠
41回 細田 實平	47回 宮坂 保三	51回 今井 好昭	58回 茅野 充男	63回 高木 鉄也	72回 池田 守人	88回 新井伸一郎	105回 土橋 嵩史
41回 矢島 勝雄	48回 伊藤 順一	51回 藤藤 智義	58回 寺島 亮三	63回 牧 成治	72回 伊藤 安昭	88回 河西 文子	105回 中村 貴帆
42回 石原 俊夫	48回 伊藤 哲夫	51回 太田 信男	58回 中澤 正衛	63回 蜜澤 裕二	72回 笠原 初雄	88回 小島 広一	105回 中村 謙太
42回 井上 彦次	48回 小口 登一	51回 小野 文良	58回 賛 淳夫	63回 両角 実	72回 小松 正隆	88回 茅野みゆき	105回 西村由莉香
42回 今井 芳樹	48回 小口 一	51回 小松 康郎	58回 林 良一	63回 米山 勉男	72回 五味 一人	88回 林 秀行	105回 浜 晋太郎
42回 菊池 貞衛	48回 河西 孝夫	51回 関 光雄	58回 原田 真弓	63回 日理美代子	72回 高木与志雄	89回 笠原 健蔵	105回 林 英嗣
42回 工藤 健	48回 金子 光男	51回 平出 碩朗	58回 藤森 照尚	64回 鮎沢 宏威	72回 永田 修平	89回 白石 敦子	105回 林 智樹
42回 小平 祐	48回 川窪 純光	51回 藤森 定義	58回 御園 廣實	64回 小澤 俊	72回 名取 重治	89回 田中 孝司	105回 福島 理雄
42回 小松 廣	48回 木下 芳英	51回 三井 章義	58回 宮坂 栄治	64回 小沢 洋二	72回 三井 義久	90回 坂口 みほ	105回 藤森 勇希
42回 鋤柄 正視	48回 小林澄三郎	51回 宮坂 裕次	58回 矢嶋 聰	64回 佐々木忠男	72回 宮沢 繁子	90回 浜 孝章	105回 降旗 裕美
42回 土橋 克実	48回 小松 文彦	51回 矢崎 斉男	59回 朝倉 周一	64回 清水 強	73回 浅川 辰司	90回 矢澤 勲	105回 宮坂 洋輔
42回 林 裕蔵	48回 清水 健資	51回 山崎 壯一	59回 鮎沢 茂登	64回 高山 功	73回 伊藤 正陽	91回 今井 彰	105回 守屋 勇樹
42回 増井 邦夫	48回 西澤 寛	52回 今井 文人	59回 小川 勝嗣	64回 中沢 俊雄	73回 牛山 秀彦	91回 酒井 有子	105回 吉澤 雅子
43回 大河内一樹	48回 林 五平	52回 坂口 博樹	59回 小沢 靖弘	64回 林 實	73回 岡野 健	91回 松尾 充隆	
43回 小松 清美	48回 平出 司朗	52回 篠原 剛	59回 加賀美久高	64回 山崎 晃	73回 北川 和彦	92回 飯田 文晴	
43回 近藤 武	48回 平島 昭	52回 清水 忠義	59回 小林 征史	64回 山田 貞幸	73回 熊谷 靖樹	92回 今井 幹雄	
43回 斎藤 正樹	48回 藤森 正好	52回 高木 正幸	59回 小松 巖	64回 山田 巻義	73回 小島 誠二	92回 梅垣 隆	
43回 丸山 剛	48回 山岡 正邦	52回 田上 明	59回 白倉 徹哉	65回 伊藤 速一	73回 小林 正和	92回 古村 慎二	

支部活動報告

	関西支部 (272名)	東京支部 (東京清陵会・3,723名)	東海支部 (110名)	北信支部 (269名)	松本支部 (301名)
支部役員名・連絡先	支部長 / 河西計介 (42回) 副支部長 / 小倉 裕 (45回・事務局局長兼務) 小池俊二 (49回) 宮坂敏彦 (49回) 藤森千弘 (50回) 中山 亮 (50回) 酒井嘉也 (51回) 杉村 健 (51回) 今井文人 (52回) 監事 / 小林秀春 (47回) 幹事代表 / 熊井巻夫 (58回) 〒666-0129 川西市緑台7-3-15 ☎FAX072-793-8668 (吉澤啓介・57回)	会長 / 林 尚孝 (52回) 副会長 / 藤森宏一 (63回) 生越万理子 (66回) 事務局長 / 平林千義 (67回) 事務局次長 / 小野寿勇 (58回) 金子充宏 (65回) 平林千春 (69回) 会計幹事 / 有賀朝彦 (63回) 顧問 / 小口禎三 (36回) 小平祐 (42回) 寺島敏郎 (50回) 淵上良子 (56回) 〒120-0005 足立区綾瀬2-31-7 ☎03-5680-7633 FAX03-5680-7665 (小野包装内) E-mail:tseiryo@papiacargo.co.jp 関東1都6県にお住いで東京清陵会に登録されていない方は事務局までご連絡下さい。「東京清陵会だより」14号および総会通知を9月にお送りします(年会費1,000円)。	支部長 / 岩田昌久 (50回) 副支部長 / 武井久良 (59回) 笠原英城 (59回) 事務局長 / 小松久夫 (59回) 幹事 / 堀川喜代太郎 (61回) 浜 一吾 (65回) 今井安栄 (67回) 保坂秀正 (68回) 黒河内武 (68回) 小口真紀雄 (69回) 北原晴男 (72回) 矢沢弘司 (81回) 顧問 / 山田 晶 (40回) 飯島宗一 (41回) 錦見高弘 (42回) 竹村 弘 (44回) 〒486-0838 春日井市弥生町1-116-403 ☎0568-82-0938 (小松久夫)	支部長 / 茅野 實 (52回) 副支部長 / 瀬木 潔 (62回) 飯沢 清 (63回) 小口和男 (68回) 幹事 / 高見沢忠明 (61回) 〒380-8682 長野市岡田 178-8 ☎026-224-5559 (八十二銀行営業企画部内 小松毅)	支部長 / 守矢武久 (56回) 常任幹事 / 林 秀剛 (58回) 朝倉周一 (59回) 藤森邦秀 (65回) 会計監査 / 千代 務 (58回) 〒390-0827 松本市出川 3-5-28 ☎0263-26-1039 (守矢武久)
平成14年度支部総会内容	15年1月25日 阪神グリーンルーム 49名 ◇活動・会計報告 ◇活動計画・予算 ◇講演「相続の実際」講師 / 関 聖 (83回・宮崎総合法律事務所) ◇パーティ・福引	14年10月18日 アルカディア市ヶ谷 262名 ◇事業・会計報告 ◇会費値上げ / 600円→1,000円 ◇役員改選 ◇河合三彦前会計幹事表彰 ◇現役学生招待 ◇清陵高校「クイズ研究会」による「諏中・清陵クイズ」	15年2月8日 名古屋通信会館 30名 ◇出席者全員の自己紹介・欠席会員の近況報告 ◇活動・会計報告 ◇小山支部長逝去に伴う役員改選	15年2月21日 ホテル国際21 55名 ◇事業・会計報告	14年11月2日 松本信州会館 18名 ◇会務・会計報告 ◇役員改選(全員再任) ◇講演会「仏教のあれこれ」講師 / 笠島信明 (69回・法泉寺住職)
平成14年度活動内容	◇「関西支部会報」第5号発行 ◇ゴルフ部会 (2回) ◇歩こう部会 (2回) ◇SSH意見を聞く会 (14年11月16日)	◇「東京清陵会だより」第13号発行 ◇「在校生・同窓生交流会2002」(7月6日清陵祭) および報告書発行 ◇第11回ゴルフ大会 (11月21日)、第12回ゴルフ大会 (5月16日) ◇第8回「女性の集い」(12月8日・参加者 / 24名) 講演「いつまでも元気に」講師 / 青木瑞枝 (56回)			◇名簿の整備 ◇逝去会員の弔問・支部旗貸出し ◇資料の整備・整理マニュアル化
平成15年度活動計画	◇定期総会 (予定16年2月21日) ◇「関西支部会報」第6号発行 ◇ゴルフ部会 (2回) ◇歩こう部会 (2回) ◇カルチャー部会 (1回) ◇SSH意見を聞く会 ◇役員会	◇第37回定期総会 (予定15年10月17日・アルカディア市ヶ谷 当番70回生) ◇「東京清陵会だより」第14号発行 ◇ゴルフ大会 (春・秋開催) ◇第9回「女性の集い」(予定15年11月29日・神宮前アコスタジオ) ◇南信同窓連・長野県東京同窓連への参加	◇会員の増員を図る ◇会員名簿の編集・発刊 ◇第20回記念定期総会 ◇支部規約の見直し	◇定期総会	◇定期総会 (15年9月～10月・信州会館 当番70回生) ◇名簿の整備 ◇逝去会員への支部旗貸出し ◇資料の整備・整理マニュアル化

ジュエリーサロン ジュム・カマクラ

代表取締役
鎌倉 宗一 (70回生)
SOICHI KAMAKURA

有限会社 ジュム・カマクラ
392-0022 長野県諏訪市高島1-18-7
Phone.0266-57-2510 Fax.0266-57-2511
Personal Call:090-3149-5613
E-mail:gemkama@po2.lcv.ne.jp

三州陶器瓦・平板瓦
コロニアル販売施工

有限会社 成瀬瓦店

代表取締役
成瀬 紀夫 (70回生)

長野県上伊那郡辰野町北大出 8062
TEL 0266-41-0245
FAX 0266-41-0441
携帯 090-3440-2688

上伊那支部 (277名)	岡谷支部	下諏訪支部	諏訪支部	茅野支部	原支部 (117名)	富士見支部 (岳陵会・260名)
支部長 / 石川 進 (52回) 副支部長 / 荻野 浩 (57回) 常任幹事 / 伊藤隆一 (58回) 幹事 / 林 靖 (62回) 勅使川原明英 (66回) 大森尚人 (68回) 田中正幸 (71回) 会計 / 橋本実樹 (83回) 〒399-0424 辰野町赤羽651 ☎0266-43-0420 (石川進)	支部長 / 鮎沢茂登 (59回) 副支部長 / 宮坂照彦 (60回) 原 忠之 (64回) 花岡征好 (68回) 顧問 / 山岡利平 (28回) 林 憲一 (28回) 山岡正邦 (48回) 宮坂久臣 (49回) 〒394-8611 岡谷市郷田2-1-8 ☎0266-23-4567 (諏訪信用金庫内 事務局・林 直樹)	支部長 / 酒井敏夫 (56回) 副支部長 / 小口章夫 (57回) 林善八郎 (58回) 小口 剛 (59回) 会計 / 野澤彰治郎 (61回) 〒393-0084 下諏訪町栄町 5031-7 ☎0266-27-7041 (酒井敏夫)	支部長 / 飯田節夫 (58回) 副支部長 / 牛山 孝 (59回) 会計 / 矢島 穆 (61回) 事務局長 / 藤森和弘 (60回) 〒392-0003 諏訪市立石 9107-8 ☎0266-52-6377 (飯田節夫)	支部長 / 小川明人 (56回) 副支部長 / 牛山 俊 (61回) 事務局長 / 北原正信 (69回) 〒391-0213 茅野市豊平1784 ☎0266-72-6553 (牛山 俊)	支部長 / 堀内元長 (62回) 常任幹事 / 佐貫正憲 (76回) 小林正雄 (81回) 〒391-0192 原村6549-1 ☎0266-79-7920 (原村役場教育委 員会内・佐貫正 憲)	支部長 / 植松幹夫 (50回) 副支部長 / 内藤好昭 (59回) 小池博之 (63回) 事務局長 / 平出重昭 (72回) 〒399-0211 富士見町富士見 3308 ☎0266-62-3327 (植松幹夫)
14年4月27日 たつのパークホ テル 48名 ◇事業・決算報告 ◇事業計画・予算 ◇講演「明治・ 大正期の朝日村 についての一考 察」講師/長田 源康 (46回)	15年3月28日 ホテル岡谷 ◇事業・会計報告	15年3月21日 ぎん月 48名 ◇事業報告 ◇役員追加の件 ◇講演会「最近 の町政について」 講師/高橋文利 (59回・下諏訪町 長)	14年11月13日 諏訪シティホテ ル成田屋 100名 ◇事業・会計報告 ◇役員改選 ◇講演「企業に おける人事制度 の動向」講師/ 矢崎勝美 (70回・ 三協精機製作所 執行役員人事セ ンター長)	15年2月22日 マリオローヤル 会館 60名 ◇事業報告 ◇役員改選 ◇講演「教育の 原点を想う-父 親たちの責任」 講師/上原和夫 (52回・八王子キ リスト教会牧師)	13年7月27日 原村中央公民 13名 ◇事業・会計報告 ◇事業計画・予算	15年3月11日 油屋旅館 25名 ◇事業・会計報告 ◇役員改選 ◇講話「富士見 町の近況につい て」講師/矢嶋 民雄 (57回・富 士見町長)
◇役員会	◇役員会 (15年3 月6日)	◇納涼役員交流会 ◇役員会	◇役員会 (14年9 月13日) ◇役員会 (14年 10月23日)	◇役員会 (14年 12月12日) ◇役員会 (15年1 月28日)	◇役員会 ◇村外会員に村 広報誌を配付 ◇逝去会員への 弔電	◇役員会 ◇清陵富士見会 との交流
◇役員会 ◇名簿の整備 ◇定期総会 (予 定15年5月)	◇役員会 (予定 16年2月) ◇定期総会 (予 定16年3月)	◇納涼役員交流会 ◇役員会 ◇定期総会	◇役員会 ◇定期総会 (予 定15年11月中旬) ◇会員名簿の整備	◇役員会 ◇定期総会 (予 定16年2月) ◇講演会 ◇名簿の整理	◇役員会 (予定 15年6月) ◇定期総会 (予 定15年7月) ◇講演会 ◇ハケ岳 マレッ トゴルフ大会 (予 定15年9月) ◇名簿の整備	◇役員会 ◇定期総会 ◇逝去会員の弔問 ◇清陵富士見会 との交流

MABUCHI SST INC.

私たちは、グローバルな視点で創造する
「ハイブリッド型研究開発商社」です。



●営業品目
各種IT機器(印刷、計測機器)の設計・販売・導入・保守・修理
測定機器の保守・修理・計測機器の設計・販売・導入・保守・修理

株式会社 マブチエスアンドティー

〒399-0422 長野県上伊那郡辰野町平出1842-7 TEL.0266(41)0001 FAX.0266(41)2500
長野県辰野町辰野1-1-1 TEL.0266(41)0007 FAX.0266(41)2509

東京支店/大阪支店/名古屋支店/福岡支店/札幌支店/仙台支店/広島支店/岡山支店/神戸支店/名古屋支店/東京支店
http://www.mabuchist.co.jp E-mail: mst@mabuchist.co.jp

処方せん調剤 漢方薬

有限会社 二葉薬局

会長 井上彦次 (42回)
 会計 浜正一 (70回)
 薬剤師 井上優 (72回)
 社長 井上幸彦 (84回)

〒392-0026 諏訪市大手1-3-2
 TEL 0266-52-1242
 FAX 0266-52-3460

学年会短信

(★は今後に予定されている活動)

回	名称	活動内容・幹事短信
37		★平成15年9月頃に有志同級会を開催予定。(幹事/土橋道久 ☎0266-52-3693)
38		★平成15年6月28日午後4時より同窓会総会終了後、諏訪市「緑水」で学年会開催予定。今後の学年会の運営について協議したい。(幹事/小林克巳 ☎0266-64-2063)
43	思山会	東京思山会を平成15年5月22日に新宿「車屋」本店にて開催。(代表/石原俊夫 ☎0266-43-1766)
45		在京同年会を平成15年4月14日に吉祥寺「大摩天楼」にて開催。(在京幹事/林四郎) 昭和14年に我々が諏訪中学へ入学した時、新任として着任された水藤先生が昨年ご逝去され、幹事一同で相談し、同期生一同としてご香典を送りました。奥様よりご丁寧な礼状を頂いております。今年は御神渡りもあり、お互い喜寿を迎え健康でありたい。(学年幹事/小松一弘 ☎0266-52-6911)
47	清志会	★平成15年6月18日午後6時より諏訪市「諏訪湖インあるが」にて学年会を開催する予定です。(幹事/伊東敬一郎 ☎0266-52-1959)
48	白樺会	例年のとおり東京清陵白樺会を平成15年3月24日に神楽坂「エミール」にて開催。毎年3月開催の東京清陵白樺会に多数の参加を！(幹事/溝口勉 ☎0266-58-0306)
50	互励会	毎年8月20日前後に学年会を開催しています。(幹事/村上賢次 ☎0266-52-0106)
52	双樹会	平成14年5月19日に茅野市「蓼科グランドホテル滝の湯」にて92名の参加を得て卒業50周年記念総会・懇親会を開催。翌20日にはゴルフ組とトレッキング組に分かれて蓼科の自然を満喫し散会した。
55		平成15年1月18日に新宿「セブン」に37名の参加を得て東京双樹会新年会を開催し、「千萬人賞」創設を決議した。(幹事/52回小林貢三郎 ☎0266-79-2221 55回三井光之 ☎0266-52-6762)
56	かりん会	平成15年5月17日、諏訪市「ぬのはん」にて恩師矢島子郎先生をはじめ60余名が出席して学年会を開催しました。当日、元共同通信社勤務の伊藤力司(56回)君が「世界から見た日本人、そして諏訪人」と題して卓話を行いました。(幹事/神山幸雄 ☎0266-27-8465)
60	睦和会	平成14年5月25日に東京睦和会を開催(当番幹事/小口征男)。東京と諏訪とで交互に毎年1回学年会を開催しています。多くの参加を！(幹事/笠原文武 ☎0266-53-0506)
61		平成14年5月30日に学年親睦ゴルフを約30名の参加を得て開催。8月中旬に納涼会、12月下旬には忘年会を計画しています。いずれも橋場会館で毎年の行事ですので多くの参加をお待ちします。(幹事/土橋勉 ☎0266-72-4840)
64		60歳になり、近々に皆様諏訪へ集れる機会を設営したいと考えています。(幹事/小松修治 ☎0266-52-3121)
68		★平成15年6月28日の定期総会終了後、学年懇親会を諏訪市「紅蘭」にて開催予定。 諏訪地方同年生の集い「けっこう会」を毎月第3土曜日の夕刻開催しています。学年連絡等がある方はご一報下さい。(幹事/伊藤八郎 ☎0266-52-3769)
69	無垢の会	★平成15年6月28日同窓会総会・懇親会後に同年会を諏訪市内で開催予定。翌日はゴルフコンペ。 昨年は当番幹事でした。無事、成功のうちに終わりましたこと感謝致します。今年の総会には70回生への恩返しの意味で沢山の方々の出席をお願いします。(幹事/矢澤博 ☎0266-72-8974)
70		★いよいよ同窓会定期総会を私達70回生が当番幹事として開催する時がやってきました。是非、諏訪の地へ全員がお集り下さい。6月28日同窓会定期総会後に学年会を開催します。(幹事/山田厚 ☎0266-28-6689)
77		77回同年会を再始動させます。住所変更等は幹事まで一報下さい。(幹事/長田光正 ☎0266-41-0172)
79	かかなき会	平成14年11月3日に諏訪市「橋場会館」にて、学年会「かかなき会」発足総会を開催。★本年も秋口にイベント開催予定。(幹事/金子康正 ☎0266-52-3888)
94		昨年末に近況報告集の呼び掛け葉書を出しましたが、お返事はまだ受け付けています。kenya@k2.dion.ne.jp(藤森)までご連絡下さい。夏頃に発行予定です。(幹事/藤森賢也 ☎075-811-2124)



クリーン&ファインテクノロジー

株式会社 ミスズ工業

精密金型・プレス部品・高密度半導体実装モジュール・医療機器関連部品

代表取締役会長 山崎 壮一(51回生)

代表取締役社長 山崎 泰三(83回生)

監査役 山崎 俊一(80回生)

本社 諏訪市四賀3090 TEL0266-52-6611(代)

やさしさをぬくもりのおもてなし

政府登録国際観光旅館



代表取締役社長 山崎 壮一(51回)

取締役社長室長 山崎 澤子(56回)

取締役 山崎 俊一(80回)

〒392-0027 諏訪市湖岸通り3-3-10 TEL0266(58)8000

支部
だより

充実の講演会

諏訪支部総会は毎年11月に会員約100名の出席のもとに開催されています。その際、翌年6月の同窓会本部の定期総会の当番学年にあたる地元の諸氏に「本番のリハーサル」と称してお手伝いをお願いしているわけですが、そのうちの主なイベントのひとつに、当番学年が同期生のなかから選んだ講師による講演会があり、参加者からなかなかの好評を博しています。近年の演題と講師を紹介すれば、次の通りです。

平成
7年「ロシアから見た世界」小林和男氏 (62回)
8年「今、子供の世界で起きていること」内田良子氏 (64回)
9年「目まぐるしく変わる金融環境」小林治雄氏 (65回)

諏訪支部支部長 飯田 節夫 (58回)

10年「センサーと私」中村俊夫氏 (66回)
11年「メッセージ…今伝えておきたいことがある」三浦久氏 (67回)
12年「21世紀のまちづくり」矢崎和広氏 (68回)
13年「まちを診る」小松郁俊氏 (69回)
14年「企業における人事制度の動向」矢崎勝美氏 (70回)

以上でお分かりのごとく、そのジャンルは多岐にわたり、時には一般にも公開され、その都度多大な示唆や感銘を与えられ、まさに成人大学の感ありと頗る好評です。今後も、人材に恵まれた同窓生による講演会を続けていく方針には変わりなく、多くの方に聴講をお勧めいたします。

支部
だより

流れる川は一百里

上伊那支部は、上伊那地方出身者と、現在上伊那郡市に居住・勤務している卒業生を対象とし、二百数十名に呼び掛けて支部活動を展開している。他の支部と異なるところは、上伊那という地域の特性に影響を受けてきたこと、また、昭和49年より高校通学区制度が厳格に施行され、辰野中学・両小野中学の卒業生のみが清陵高校入学を認められることから、会員の増加が限定されてきたことなどが挙げられる。

さて、当支部の活動の中心は、なんといっても年1回の総会である。平成14年度の総会は、昨年4月27日に辰野パークホテルを会場に開催された。議事に先立ち、過去1年間に物故した会員に黙とうを捧げた後、支部長挨拶。つづいて来賓の祝辞を頂いた。同窓会の有賀副会長よりユーモアあふれる豊富な話題、窪田校長先生からはスーパーサイエンスハイスクール指定校に選ばれた報告などを傾聴した。

上伊那支部事務局 石川 進 (52回)

総会での特色のひとつは記念講演。毎年、講師は会員のなかから推薦されるのが原則で、昨年度は長田源康氏 (46回) の「明治・大正の朝日村の人材についての一考察」であった。現在の辰野町に合併する前の旧朝日村の生み出した多くの人材と、その業績についての緻密な研究成果をまとめられた論文をもとに講演された。

懇親会に移っては、35回生から92回生に至る、年齢を超えた45名の間で、お互いの生活ぶりや健康、さらには昔の思い出などが交わされ、楽しい語らいが続いた。最後の締めは長い長い校歌。第一、第二に続いてまだある。本支部独自の上伊那学生団歌『流れる川は一百里』である。これは、参加者の心をひとつにする不思議な魔力をもっている。かくして余韻を残しつつ、来年の再会を約して散会した。

学年会
だより

『ブッシュよ人を殺すな』 双樹会 戦争反対の意見広告

イラクをめぐる米英の雲行きが怪しくなりつつあった3月7日、諏訪同窓52回生・55回生からなる双樹会の諏訪地区月例会「七日会」が諏訪市の鳥梅で開かれ、8名が鍋をつついていた。その席上、「戦争の悲惨さを体験した世代としては、

藤森 昇 (52回)

戦争には絶対反対だ。何らかの行動を起こそう」との提案があり、3月17日を期限とする米国の国連安保理決議案のタイムリミットに間に合わせるべく、1人10,000円くらいで10人を目標に掲掲費用を捻出し、地元新聞紙上に意見広告を掲載

山口正雄税理士事務所

税理士 山口 正 雄
(70回)

〒390-0851 松本市島内 3688-11
電話 0263 (48) 0167
FAX 0263 (48) 0253
yamaguchi.m.kaikei@tkcnf.or.jp

整形外科 外科 産科 婦人科
立 木 医 院

立 木 正 純 (38回) (整形外科)
(日本体育協会公認スポーツドクター)
(山本喜市先生顕彰碑保存会会長)
(全日本スキー連盟強化本部スポーツドクター)

立 木 委 枝 (産婦人科)

〒392-0004 諏訪市諏訪1丁目22-24
電話 0266-52-1074

したいとする方針を確認した。翌日、東京双樹会のメンバーも含めて検討するなかで、双樹会全員に2,000円以上のカンパを呼びかけて、限定された有志にとどめず、双樹会全体の活動して取り組むこととなった。

広告の文言については「殺されても殺すまい!」と人間の基本的な姿勢に訴える最初の文案から激論のすえ、「イラクへの武力攻撃に絶対反対。ブッシュよ人を殺すな!」に決まった。10日、全国に広がる265名の会員全員に往復はがきを発送したところ、「いかなる戦争にも反対」、「時宜を得た呼びかけ」、「意思表示をしたかった」等々の回答が寄せられるなど関心の高さがうかがえ、打てば響く手応えを感じた。

こうして15日には募金の目処もつき、ただちに3月17日付け長野日報に3段のスペースを確保し、83名の氏名とともに反戦広告を掲載することができた。また、予想以上の応募が

あったので、翌18日の市民新聞グループの紙上にも掲載した。最終的には133名からの回答があり、氏名掲載を望まない人も含め99名の賛同者から100,000円を最高額として340,000円余の拠出を得ることとなった。これだけカンパを集めることができるならば、全国紙とまでは言わないが、もう少し多くの人にアピールする方法があったのかもしれないと、今となれば少し残念な気もする。

短期間にもかかわらず、約半数の諸兄から返答があったが、特に日頃、我が双樹会活動に疎遠だった人や、途中転校された方からも意思表示があり、また、賛同の得られなかった方々の意見にも傾聴すべきもの多く、清水ヶ丘に学んだ者の連帯感を強く感じ、嬉しかった。古稀を迎える今年、有意義な活動ができたと思いつつも、長引く戦禍に心傷め、早い終結を願うこの頃である。

(4月7日記)

平成15年3月17日付け長野日報掲載意見広告

イラクへの武力攻撃に絶対反対。ブッシュよ人を殺すな!

私たちは第二次世界大戦の中で少年時代を送り、思いがけず古稀を迎えることができました。

父や兄を戦争で失った友人もあり、戦争の悲惨さを今もって忘れることができません。命の大切さを思うとき、「人の命を奪いあう」戦争には反対です。

如何なる理由があっても、悲惨な戦争に反対します。

2003年3月17日

双樹会（諏訪清陵高等学校昭和27年卒業同窓会）

青木 博國・味澤 正治・鮎沢 遼雄・伊藤 千弘・牛山 積・牛山 一・牛山 房弘・榎本 平三・大島 良美・大谷 博・小口 明・小口 元一・小野 泰策・河西 和彦	河西 節郎・笠原 智・笠原 昭治・笠原 哲次・柏田 邦彦・金子 信也・私市 保彦・北澤 喜一・三枝 健男・篠原 剛・清水 純・清水 忠義・下村 幹夫・白川 太一	小松 清一・小松 晃・小松 武義・小松 保美・五味 省七・五味 春人・小山 喜一・三枝 健男・篠原 剛・清水 純・清水 忠義・下村 幹夫・白川 太一	諏訪 淳・関 裕安・高林 良治・立石 和夫・田中 正利・千葉 春男・茅野 倫史・林 尚孝・平出 昭徳・矢島 光保・矢島 昭徳・矢島 和幸・柳澤 邦親・米沢 時雄・米澤 朝宗・渡邊 義郎	中村 安宏・中山 登・二村 一夫・野明 汎・浜 篤・濱 尚孝・平出 昭徳・矢島 光保・矢島 昭徳・矢島 和幸・柳澤 邦親・米沢 時雄・米澤 朝宗・渡邊 義郎	三井 光之・宮澤喜世雄・村田 実・守屋 博之・関角庄二郎・矢崎 光保・矢島 昭徳・矢島 和幸・柳澤 邦親・米沢 時雄・米澤 朝宗・渡邊 義郎
---	--	--	--	--	--

(五十音順)

学年会 だより

紅葉絢爛！熱き血潮の湧く限り —72回生、35年目の修学旅行

熊崎 秀和（72回）

1. 思い出の発酵 旅行を終えてしばらく経ち、記念の集合写真を参加者に郵送したとき、「思い出が発酵してなお気分の高まりがやまない状況」を伝えた。同じ気持ちであると、全国に散った仲間から連絡があった。今回の旅は、高校時代に修学旅行がなかった学年として、どこかでけじめをつけようと考えた有志の企画が実現したものである。矢島子郎先生の言葉をお借りすると、「気になっていた旅行」であり、同期生にとっては「忘れ物をしてきたような」旅行である。

2. ツキに恵まれる 企画を進めるに当たって幸運だったの

は、バス会社アルピコの社員に同窓生がいたこと、委員が気楽に集えるたまり場「くるみ」があったこと、そして72回生のホームページが同時進行で立ち上がったことである。

肝腎のコース設定は紆余曲折を経た。久しぶりの仲間同士の旅行だから場所は二の次、みんなと交流を深められればいいと思いこんでいた。ところがホームページに、ここが名所だ、いやこっちこそ庄巻だと議論百出。旅行にかけるすばらしき情熱よ。結局小口太郎を讀え「琵琶湖周航の歌」を放歌高吟しようと、滋賀から京都への1泊2日のコースでまとまった。

今から思うと旅行へ向けてどんどんエネルギーが集中し、地の利、時の利、天の利を得てすべての条件に恵まれた旅行であった。

3. 添え物 旅行に添えた脇役が2つある。同朋の手になる「傑作旅行案内」と30余年ぶりに復刻した春歌集「竹の子」がそれ。2つともオリジナル作品で、竹の子は清陵当時地方会の秘伝の歌を集めた「とっておき」であった。(当時密かに出回った「竹の子」歌集を先着30名様までさしあげます。ご希望の方は メール kumasa@po17.lcv.ne.jp 熊崎宛か 090-7227-7607携帯までご連絡を)

4. 壮年旅行に思いがたぎる 足かけ35年目の修学旅行ともなると、参加者の容貌に人生の深いしわが刻まれるのが道理だ。ところが再会の瞬間に青春を



石山寺での記念撮影

共有した思いが忽然と起こって、年月の覆いは完全に取り払われる。「よう！元気か」の一声で相好を崩すその笑顔はまさしく友の顔。さあ旅行モードにスイッチオン。今回都合でいけなかった同朋達の思いも乗せて、車中は人生談義で沸きかえる。

初日は滋賀県の石山寺・三井寺の拝観。現地での合流組とともに、紅葉が色きそう風情を鑑賞。突如、お寺の境内で金色の民が地響きを。その夜は雄琴温泉に一泊。胸襟を開く宴会の後、肩を組んでの大合唱。夜更けまで語りは尽きない。

明けて滞りなく出発と思いきや、学友会長置いてきぼり事件が発生。Uターンのほめに。これも旅行に味を添える一幕と、粋な演出？に大満足であった。

琵琶湖と京都は目と鼻の先。山間を軽快に越えて京都の街に。洛東の北辺「真如堂」から入る。折しも秘宝曼陀羅の公開月間にあたり、極楽浄土の絵解きを受ける。境内にて恩師の3先生にインタビューを敢行する。柔らかな日差しを受けて穏やかに語る先生方の風情にさわやかな感動を覚えた。なぜ修学旅行がなかったのか、旅行の見直しの必要からとの説明があったが、むしろ後年の旅行を引き出すための伏線であったと考えれば、納得できるものがある。それにしても、真如堂の紅葉のグラデーションは見事だった。1年で最高の見

頃に訪れることの幸運。

次に訪れた永観堂の紅葉は、圧巻を通り越して商業主義にどっぷり浸かって、参拝の是非が分かれた。いわく、「ぼったくり寺」。途中散策の「哲学の道」は、大哲学者に由来するらしいが、我ら凡人にとって哲学とは生きること、より良く生きようとするもののなかにこそ見いだせる思いがする。

平安京の敷地の地下には豊かな水源があって、その水脈が京都の繁栄をうながし、食文化も支えてきたという。南禅寺の道すがら、湯豆腐の看板を多く目にしながら、土地の栄える要因に「水」は欠かせないと実感する。昼食をここで食し帰路に就く。

5. 縁尋機妙—あらたなる旅立ち 全国から集まった学友50名。社会生活をしていると気持ちが未来に向かう。ところが単なる懐古趣味とて遠ざけていた青春の一時代を引き寄せることが、あらたな力の源になることを発見した。「青春とは人生のある期間をいうのでなく、心の様相を言う」サムエル・ウルマンの言葉にいよいよ励まされる。

今回のつながりが新たな発展のはじまりであるとの認識に立ち、学友のこれからの活躍に関心を寄せ、少しでも協力を惜しまない心意気を持ちたいと思う。清陵の磁力は時代を超えてわれわれをいつまでも引きつけてやまない。

支部
だより

祥雲会 5年振りの再会

岩本 和久 (83回)

去る平成14年8月14日、清陵高校同窓83回生の学年会祥雲会が諏訪市浜の湯にて開催された。卒業後、比較的早い時期に結成された祥雲会は、5年ごとを目安に過去2回ほど学年

会を開催しており、この日も、当時、担任をしていただいた窪田孝美前校長先生、五味省七先生をお迎えし、80名近くの同期生を集めて懇親を深めた。



会場の大型スクリーンでは20年前の写真を集めたビデオが上映された。昔懐かしいボロボロ校舎での授業風景や諸先生方の表情、クラスマッチでのスナップ、研修旅行や清陵祭のひとつまに、懐旧の念を深めるとともに、中年にさしかかり腹の出っ張りが少々気になりだした自分たちの姿と20年前のそれとを重ね合わせ、隔世の感を実感した。また、アトラクションでは芸能人顔負けのものまねまでとびだし、同期生の多才振りに舌を巻く場面も。和やかな談笑に包まれた楽しいひと時を過ごすことができた。



昭和シェル石油特約店
株式会社 細川商店
諏訪市諏訪二丁目10番4号 ☎本店(0120)210-613

代表取締役会長 細川 昭 八 (51回)

代表取締役社長 細川 洋 一 (84回)

専務取締役 宮坂 友比古 (67回)

常務取締役 細川 浩 二 (86回)

株式会社 蓼科木工所

一級建築事務所

木製建具
造作家具
室内アルミ建具

代表取締役

牛山 寛 俊 (70回生)

小平 正 喜 (66回生)

〒391-0211 茅野市湖東堀4994-1
TEL(0266)77-2001(代) FAX(0266)77-2002

寄稿

同窓の美術家たち

美術評論家 藤森 耕英 (70回)

美術界に多少なりとも関わっていることから、「同窓の美術家」について無関心ではいられない。かと言って、本格的に調査取材する程のテーマでもなかったわけで、まずは記憶に頼りながら名簿から拾ったところ、卒業生全体からみれば僅かではあるものの、決して少なくない人々が美術制作に携わっているらしいことが意外だった。

まず脳裏に浮かぶのは、日本にフォーヴィズムをもたらした一人として知られる中川紀元 (1892-1972) の名である。上伊那郡朝日村 (現・辰野町) 出身の13回生。諏訪中学卒業後、東京美術学校 (現・東京芸術大学) 彫刻科に進むが、軟派ムードが気に入らず、1ヵ月足らずで中退。石井柏亭や正宗得三郎に師事し

たのち帰郷、玉川小学校の代用教員をしながら二科会 (当時は反官展の性格が強かった) に出品した。1919年から21年までフランスに留学、アンリ・マチスに学び、帰国後はフォーヴィズム的作品を二科展に発表。戦後は熊谷守一らと第二紀会 (のちの二紀会) の創立に参加、日本の風土感を求め、作風は次第に油絵による南画的傾向へと移行していった。1964年日本芸術院恩賜賞を受賞。

この時代、のちに名を成す錚々たるメンバーが同時に在学していた。即ち、紀元が5年の時、4年に岡谷の武井武雄 (14回)、1年に原村の清水多嘉示 (17回)。美術的才能を開花させうの何らかの気風が、当時の諏訪中学に内在していたのか、興味を呼ぶところである。

清水と同学年には高橋貞一郎もいた。岡谷出身で、母校をはじめ県内の旧制中学で教師を務めていたが、岸田劉生に師事して油彩画を春陽会に出品。1937年フランスに留学してからは劉生の影響を離れ、明るい色調の穏健な作風へと転換。一水会会員として受賞を重ねると同時に、日展でも受賞した。息子の高橋靖夫 (59回) も洋画家。東京芸術大学を卒業し、現在、国

画会会員、女子美術大学教授として活躍している。

武井武雄 (1894-1983)、清水多嘉示 (1897-1981)、それに茅野出身・24回生の矢崎虎夫 (1904-1988) については、幸いにも地元それぞれ個人美術館が建てられたこともあり、郷里でも広く知られるようになった。

“童画”という名称を造語し定着させ、童画・版画・刊本 (造本美術) をライフワークとし、1975年にはライブチビで開催されたく世界でもっとも美しい本>グランプリを受賞した武井の全貌は、岡谷市のイルフ童画館で見られる。絵画から出発、1923年ヨーロッパに渡ってロダンの弟子ブールデルに学んで彫刻を始め、芸術選奨文部大臣賞、日本芸術院賞を受賞、1965年日本芸術院会員に就任した清水の作品は、原村の八ヶ岳美術館に多数収蔵されている。蓼科・横岳ロープウェイ山麓駅前の蓼科高原美術館・矢崎虎夫記念館には、東京美術学校卒業後、平橋田中に木彫を師事、1939年渡欧してザッキンに学び、戦後は様々な素材を用い、人体のフォルムを量塊で捉えた矢崎の彫刻作品100点以上を収蔵している。

特に系譜と言えるようなものではないが、彫刻に関しては偶然にも時代的な連続性がある。既に触れた清水多嘉示、矢崎虎夫に、37回生の立川義明、49回生の



中川紀元「風景」1920

蒲地会計事務所

税理士 蒲地 整志 (70回)

〒393-0047

下諏訪町 4360-13

電話 0266-28-8888

FAX 0266-28-8890



仙岳 刺烹 小口 達夫 小口 慶一郎 小野 勝子

代表

小口 達夫

小口 慶一郎 (84回)

小野 勝子 (87回)

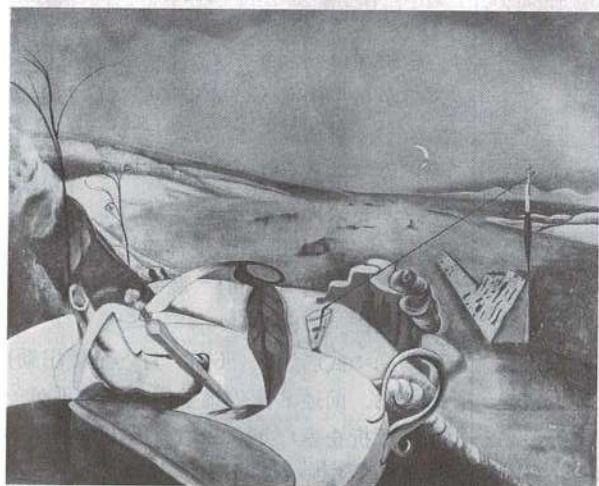
諏訪市湖岸通り 5-17-6

TEL 0266 (58) 3515

細川宗英と続く。

上諏訪出身の立川義明は、18世紀末に端を発する彫刻師・立川流の流れを汲み、東京美術学校を卒業。写実を基盤とした人物像を多く制作、現在、日展評議員として活動している。松本に生まれ、小学校2年で上諏訪に移った細川宗英(1930-1994)は東京芸術大学彫刻科を卒業。28歳で新制作協会会員となり、新しい造形表現の胎動期における若手彫刻家として早くから注目された。その後も高村光太郎賞、中原悌二郎賞優秀賞、高村光太郎大賞展優秀賞、東京現代野外彫刻展優秀賞などを受賞。旺盛な創作ぶりでモニュメントも多数制作するが、東京芸術大学教授在任中に惜しくも他界した。家族のもとに遺された全作品は諏訪市に寄贈されている。

茅野出身の34回生矢崎博信(1914-1944)は、日本の前衛絵画史にシュルレアリスム絵画・ルポルタージュ絵画の先駆者の一人としてその名を刻まれている。諏訪中学時代は写実的な絵を描いていたが、帝国美術学校(現・武蔵野美術大学)に進み、超現実主義的な作品などを描いて前衛美術運動を展開。美校卒業後は岡谷小学校の代用教員となり、独立美術展



矢崎博信「高原の幻影」1938

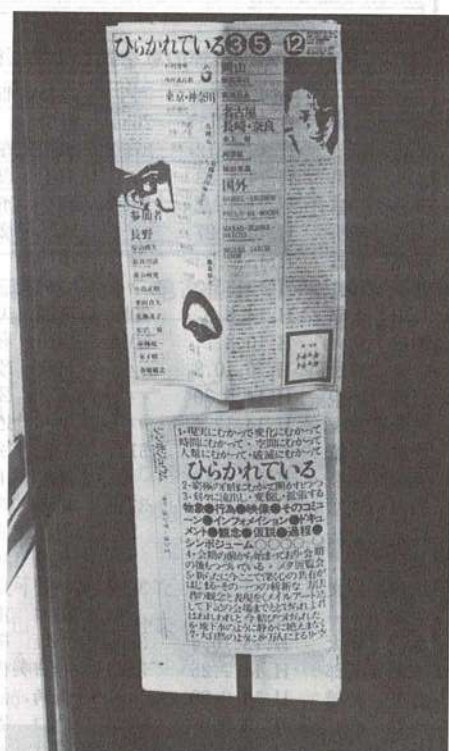
に出品。時代の空気を反映する心象風景を描きながら新たな道を模索したが、29歳で戦死、夢が結実することはなかった。1994年八十二文化財団企画による回顧展が開かれ、短い生涯における画業の全容が初めて明らかにされた。

“知る人ぞ知る”という形容がある。矢崎博信にも当てはまるかもしれないが、40回生の松澤宥はまさにその人ではなかろうか。この人ほど、一般的な知名度と美術界(とりわけ現代美術)における存在感の大きさとギャップがある美術家はいない、と思われる。現在も下諏訪町に健在であるが、日本のコンセプチュアル・アート(概念芸術・観念美術)の第一人者として海外でも高く評価されていることを、地元の人達や同窓生のどれほどが知っているだろうか。実に、世界に誇り得る「同窓の美術家」なのである。

松澤宥は早稲田大学建築学科を卒業後、1948年に帰郷。翌年から33年間、諏訪実業高校定時制下諏訪分校で数学を教える。一方で、はじめは詩を書き、1952年より独自の平面やオブジェ作品の発表を始める。1964年<オブジェを消せ>という啓示を受けて以来、現代物理学や仏教哲学を思想的背景として、“物”の形をとらず言葉(紙に記した文章)だけによって表現。1988年から

は<量子芸術>という新しい定義付けを行い、国内外において言葉による表現やパフォーマンスを続け、現在に至る。

松澤の表現は、色彩や物の形を表わす絵画・彫刻などとはまったく次元を異にするものであり、鑑賞の対象とは程遠い存在である。それではどんなものなのかと問われても、容易には説明し難い。観念芸術をスタートした当初、<荒



松澤 宥「ひらかれてる展」1972

野におけるアンデパンダン'64展>告知を『美術手帖』誌に掲載して架空の観念展覧会を催した、というひとつの具体例を挙げるに留めておく。

こうして主な美術家を拾ってみると、ほとんどが旧制諏訪中学時代の卒業生である。清陵高校の卒業生にも美術家がいなかったわけではないが、残念ながら、日本の近現代美術史に名を刻むほどではないのである。また、日本画や工芸の分野にも人材が乏しい。しかし、40・50代は若手と称される美術界、漆工芸を制作している竹森公男(70回 下諏訪出身)、抽象画を描いている根岸芳郎(72回 岡谷出身)、日本画の花岡俊秀(雅号・哲象、72回 岡谷出身)など、これから広く注目されてくるかもしれない。文学界と同様、美術界も若き女性の進出が目覚しい。清陵高校女子卒業生の美術家としての飛躍を期待したい。(以上、敬称略)

品質一筋

造り手である私たち自身が舌鼓を打って飲める酒。
大切な家族に安心してすすめられる酒。
親しい友人に胸を張って贈ることができる酒。

私たちはお客様にそんな真澄をお届けしたいと願っています。

だから、品種や産地が分からない米は買いません。

製造工場のデイトールには徹底して



こだわります。

一〇〇%自社製造を守りぬき、純米酒比率の向上にも力を注ぎました。

創業から三十四年目となる今年も、私たちは

お客様のお顔を自らの家族や友人の顔に重ね合わせながら美酒を醸し続けます。

信州が生んだ天下の銘酒

真澄
マスミ

清酒真澄醸造元

宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野諏訪市元町1-16

TEL.0266-52-6161 FAX.0266-53-4477 www.masumi.co.jp

訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申しあげます。(平成13年5月1日～平成14年4月30日にご連絡いただいた方々)

お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生
御子柴 清	H.13.10.14	26回	野口 達	H.10.6.25	37回	小山 良治	H.14.11.21	42回	小松 昭八	H.15.3.14	52回
竹村 藤数	H.13.1.12	27回	細川 春水	H.14.5.19	"	関 卓郎	H.10.5.11	43回	坂口 博樹	H.15.3.21	"
菊池 武男	H.14.5.13	"	田上 貞久	H.14.6.7	"	中島 健治	H.13.10.17	"	天野 鉄夫	H.14.6.3	55回
飯島 亘	H.11.12.2	28回	林 正七	H.15.4.15	"	向山 敏幸	H.13.12.2	"	和田 千秋	H.13.12.19	56回
小林 繁治	H.14.5.27	"	原 彦夫	H.10.7.1	38回	宮澤 秀夫	H.15.1.6	"	宮坂 武人	H.14.11.27	"
小尾 庸雄	H.15.2.23	"	小口源一郎	H.12.1.10	"	萩原 正元	H.15.4.13	"	柿木 篤	H.14.12.10	"
北川 利實	H.15.3.12	"	小林茂三郎	H.13.10.15	"	内山 勇策	H.7.4.29	44回	今井 貞雄	H.13.4.17	57回
長田 太郎	H.14.8.3	29回	宮澤 美夫	H.14.5.8	"	金子 幸生	H.15.2.7	"	宮坂 宜弘	H.14.6.14	58回
和田 光夫	H.10.8.7	30回	窪田 春彦	H.14.9.3	"	八幡 孝	H.13.12.1	"	天野 一志	H.14.8.11	"
守矢 星雄	H.10.10.8	"	尾沢 政人	H.14.11.16	"	横内 功	H.13.4.2	45回	大和 清志	H.14.8.21	"
茅野 好親	H.14.5.30	"	鎌倉 公蔵	H.13.11.29	39回	山口 春樹	H.14.7.3	"	中澤 澄行	H.14.9.1	"
矢崎喜惣次	H.14.12.1	"	小林 道彦	H.13.12.9	"	両角 四郎	H.14.9.	"	細野 晃一	H.14.4.2	62回
岩波 廣	H.11.11.16	31回	牛尾 松美	H.14.4.30	"	三沢 祥貞	H.14.3.12	46回	八木 宏文	H.14.8.24	"
安達 鉄翁	H.14.9.11	"	高林 市治	H.14.9.8	"	小松 光雄	H.14.6.21	"	鑑 秀行	H.14.12.17	66回
横内 豊彦	H.10	32回	河西 秀雄	H.14.10.29	"	上原 好之	H.14.10.22	"	川口 満	H.15.2.10	"
青木 清	H.13.9.21	"	増澤 浦人	H.14.12.13	"	岩波 直	H.14.11.28	"	山岸 雄英	H.15.3.17	"
林 正二	H.14.6.19	"	花岡 利一	H.14.12.19	"	根橋 義人	H.13.2.23	47回	平林 芳保	H.15.2.22	68回
小林 吉文	H.14.2.18	33回	小松 良秀	H.15.1.25	"	宮下 卓治	H.14.4.16	"	平林 稔之	H.14.3.20	69回
三輪 十一	H.15.3.4	"	田中 重治	H.14.6.11	40回	金井 源内	H.14.6.22	"	小山 叔郎	H.14.10.14	"
鮎沢 周太	H.13.10.4	34回	小坂 敬直	H.14.7.9	"	笠井 忠雄	H.14.7.7	"	松木 代治	H.14.12.18	"
水端大五郎	H.14.7.25	35回	春日美佐夫	H.14.11.2	"	今井 康行	H.14.1.26	48回	洞沢 孝二	H.14.1.24	73回
佐原 竜雄	H.14.9.20	"	両角 清衛	H.15.1	"	関 恒雄	H.14.8.3	"	林 昭英	H.13.11.24	75回
小島 弘	H.15.2.9	"	小口 義樹	H.15.3.1	"	伊藤 哲夫	H.14.11.2	"	歌田 直樹	H.14.11.21	88回
丸茂 喬平	H.14.1.12	36回	石井 巖	H.15.3.26	"	小松 正幸	H.14.12	"	今野 秀樹	H.14.7.31	95回
金原 昌夫	H.14.5.6	"	林見 榮喜	H.15.1.5	41回	河西 達之	H.13.6.7	49回			
小口 忠彦	H.14.8.11	"	藤田 敏夫	H.13.11.7	42回	宮坂 亮一	H.15.1.19	50回			
守屋 育衛	H.14.7.16	"	長田 啓	H.14.3.8	"	神取 信明	H.14.8.12	52回			

事務局だより

◆4月3日の母校109回生の入学式、21日には恒例の慰霊法要が執り行われ、平成15年度が歩み始めました。事務局を引き継いで3年になりますが、毎日の出勤が適わず、また当節はパソコン・インターネット等々という世の中で、これらにさして興味関心のない者が事務局を務めていることも、会員各位にご迷惑を……と常々思っております昨今。そして取り敢えず、会報の発行と定期総会へ向けての準備であたふたの毎日。

◆昨年度の清陵OB文庫への寄贈図書は次の通り。有難うございました。なお、上梓なされた節はOB文庫へご恵贈頂ければ幸甚です。

- ・小林道彦 (39回 平成13.12.9 逝去) 著『牧童の想い—折々の酪農論』
- ・白鳥重幸 (71回) 著『恐慌論研究—宇野理論と近代経済学』『宇野理論とケインズ経済学』
- ・高木久雄 (43回) 著『ドイツ文学散策』
- ・榎本平三 (52回) 著『清水丘文学』第2号『諏訪の方言 (ことば)』研究ノート
- ・東京清陵会会報13号編集委員会 (69回生) 編『雲立ち迷う時代を生きる—諏訪清陵高校「在校生同窓生交流会2002」の記録』

◆昨年の定期総会で承認されました創立110周年記念事業のひとつである『会員名簿』発刊に向けて次のように委員会も構成され、基本的な準備に着手しました。

- 委員長 松下 勲 (59回)
- 副委員長 林 尚孝 (52回)
- 委員 三井光之 (55回)
- 〃 矢澤 博 (69回)
- 〃 小口修平 (79回) *
- 〃 原 護 (66回) *
- 〃 武居浩明 (56回) *

なお*印3名は、委員会事務局として小口修平を中心に編集作業に携わります。

平成17年秋の発刊を目指しておりますが、何より大切なことは正確な個人情報です。学年・支部・クラブOB会等の名簿を是非とも事務局へお寄せいただければ幸いです。今秋には会員個々に確認・問合せのハガキを送付いたす予定です。

今回の名簿発刊は、あくまでも同窓会が情報の収集・編集作業等を行って発刊いたします。個人情報の管理など充分な配慮をいたすべく努めたいと思いますので、必要な資料の提供、情報収集にご協力をお願いいたします。なお、毎度のことながら、住所等の変更の際にはお手数ですが、事務局へご一報下さい。

◆15年度同窓会係・事務局メンバー
学校同窓会係：岩波文人 (主任 78回)
原 護 (66回) 平林義男 (73回)
大久保純男 (80回) 藤森秀則 (88回)
伊藤仁美 (97回)
事務局：武居浩明 (56回 月と金に出勤)
なお、前述名簿編集委員小口修平が、今後は折をみながら清陵会館にて名簿の編集作業をいたします。

Tel 0266-58-0356

Fax 0266-57-0348

編集後記

○毎年送っていただいている会報を、飛ばし読み程度しかしていなかった事を後悔しています。今号発行のお手伝いをして、如何に多くの関係者の方々にご苦勞いただいて手元に届くのか思い知りました。如何に深い思いを巡らせて一語一文が記されていた事か。既刊分まで改めて眼を通さずにはいられませんでした。

○不況が続き、戦争があり、何が不偏で何が正義なのか価値のもののさしはどれなのかと迷う日々。懐かしい少年時代。思い出だけで無垢の自分を蘇らせてくれるものですね。定期総会にお出かけください。

同窓会報編集委員会 矢崎勝美、小口俊光、藤森耕英、牛山寛俊、唐沢 均(70回生)